

# 瑞浪超深地層研究所の坑道埋め戻し等事業における 環境モニタリング調査

## －瑞浪超深地層研究所用地周辺の環境影響調査－ (2024年度)

Results of Environmental Impact Investigations as Part of  
Environmental Monitoring Investigation in Backfilling of Shafts and Tunnels of  
Mizunami Underground Research Laboratory (FY2024)

國分(齋藤) 陽子 竹内 竜史 西尾 和久 池田 幸喜  
Yoko SAITO-KOKUBU, Ryuji TAKEUCHI, Kazuhisa NISHIO and Koki IKEDA

東濃地科学センター

Tono Geoscience Center

本レポートは国立研究開発法人日本原子力研究開発機構が不定期に発行する成果報告書です。  
本レポートはクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。  
本レポートの成果（データを含む）に著作権が発生しない場合でも、同ライセンスと同様の  
条件で利用してください。（<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>）  
なお、本レポートの全文は日本原子力研究開発機構ウェブサイト（<https://www.jaea.go.jp>）  
より発信されています。本レポートに関しては下記までお問合せください。

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 研究開発推進部 科学技術情報課  
〒 319-1112 茨城県那珂郡東海村大字村松 4 番地 49  
E-mail: ird-support@jaea.go.jp

This report is issued irregularly by Japan Atomic Energy Agency.  
This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License  
(<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.en>).  
Even if the results of this report (including data) are not copyrighted, they must be used under  
the same terms and conditions as CC-BY.  
For inquiries regarding this report, please contact Library, Institutional Repository and INIS Section,  
Research and Development Promotion Department, Japan Atomic Energy Agency.  
4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki-ken 319-1112, Japan  
E-mail: ird-support@jaea.go.jp

瑞浪超深地層研究所の坑道埋め戻し等事業における環境モニタリング調査  
— 瑞浪超深地層研究所用地周辺の環境影響調査 —  
(2024 年度)

日本原子力研究開発機構 東濃地科学センター

國分（齋藤） 陽子<sup>+</sup>, 竹内 竜史, 西尾 和久\*, 池田 幸喜

(2025 年 9 月 24 日受理)

日本原子力研究開発機構東濃地科学センターは、同センターが進める瑞浪超深地層研究所の坑道埋め戻し等事業において、瑞浪超深地層研究所の坑道の埋め戻しに伴い瑞浪超深地層研究所用地周辺の環境への影響の有無を確認することを目的とした環境モニタリング調査を実施している。

本報告書は、2024 年度の環境モニタリング調査のうち瑞浪超深地層研究所用地周辺の環境影響調査（研究所用地周辺の井戸における地下水位調査、研究所用地周辺河川流量測定、研究所用地放流先河川水の水質分析、研究所用地周辺騒音・振動調査、研究所用地周辺土壤調査）に関する記録を取りまとめたものである。

---

本報告書は瑞浪バックフィルサポート株式会社が日本原子力研究開発機構との PFI 契約により実施した業務の成果に関するものである。

東濃地科学センター：〒509-6132 岐阜県瑞浪市明世町山野内 1-63

+ 原子力人材育成・核不拡散・核セキュリティ総合支援センター

\* 株式会社ペスコ

**Results of Environmental Impact Investigations as Part of Environmental  
Monitoring Investigation in Backfilling of Shafts and Tunnels of  
Mizunami Underground Research Laboratory (FY2024)**

Yoko SAITO-KOKUBU<sup>+</sup>, Ryuji TAKEUCHI, Kazuhisa NISHIO\* and Koki IKEDA

Tono Geoscience Center  
Japan Atomic Energy Agency  
Akiyo-cho, Mizunami-shi, Gifu-ken

(Received September 24, 2025)

The Tono Geoscience Center of Japan Atomic Energy Agency (JAEA) has been conducting the environmental monitoring investigation to confirm the environmental impacts associated with the backfilling of shafts and tunnels at the Mizunami Underground Research Laboratory (MIU). This report summarizes the results of the environmental impact investigations conducted as part of the environmental monitoring investigation around the MIU Site in FY2024, which include groundwater level measurement in wells, river flow rate measurement, water analysis of Hazama river, noise and vibration surveys, and soil survey.

**Keywords:** Environmental Impact Investigation, Environmental Monitoring Investigation, Mizunami Underground Research Laboratory

---

This work was performed by Mizunami Backfill Support Co., Ltd. under contract with Japan Atomic Energy Agency.

+ Integrated Support Center for Nuclear Nonproliferation, Security and Human Resource Development

\* PESCO Co., Ltd.

## 目 次

1. はじめに .....	1
2. 調査概要 .....	2
3. 調査結果 .....	3
3.1 研究所用地周辺の井戸における地下水位調査 .....	3
3.1.1 調査方法 .....	3
3.1.2 調査結果 .....	6
3.2 研究所用地周辺河川流量測定 .....	17
3.2.1 測定方法 .....	17
3.2.2 測定結果 .....	20
3.3 研究所用地放流先河川水の水質分析 .....	22
3.3.1 調査方法 .....	22
3.3.2 調査結果 .....	29
3.4 研究所用地周辺騒音・振動調査 .....	37
3.4.1 調査方法 .....	37
3.4.2 調査結果 .....	41
3.5 研究所用地周辺土壤調査 .....	45
3.5.1 調査方法 .....	45
3.5.2 調査結果 .....	49
4. まとめ .....	57
参考文献 .....	57
付録 1 国土交通省・日吉観測所における雨量観測記録 .....	59
付録 2 河川流量測定結果 .....	61
付録 3 研究所用地周辺の年間降雨量の推移 .....	63
付録 4 研究所建設工事着手前の研究所用地周辺の騒音・振動測定結果 .....	64
付録 5 他地域の土壤中塩化物イオン濃度 .....	65

## Contents

1. Introduction .....	1
2. Summary of environmental monitoring investigation.....	2
3. Results of environmental impact investigations .....	3
3.1 Groundwater level measurement in the wells around the MIU Site .....	3
3.1.1 Measurement method .....	3
3.1.2 Measurement results .....	6
3.2 Flow rate measurement of the rivers around the MIU Site.....	17
3.2.1 Measurement method .....	17
3.2.2 Measurement results .....	20
3.3 Water analysis of the river water to be discharged from the MIU Site.....	22
3.3.1 Analysis method .....	22
3.3.2 Analysis results .....	29
3.4 Noise and vibration surveys around the MIU Site .....	37
3.4.1 Survey methods .....	37
3.4.2 Survey results.....	41
3.5 Soil survey around the MIU Site .....	45
3.5.1 Survey method.....	45
3.5.2 Survey results.....	49
4. Concluding remarks.....	57
References .....	57
Appendix 1 Precipitation observation data at Hiyoshi observation station, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism (MLIT).....	59
Appendix 2 River flow rate measurement results .....	61
Appendix 3 Data of annual precipitation around the MIU Site .....	63
Appendix 4 Results of noise and vibration surveys conducted around the MIU Site prior to construction of the MIU .....	64
Appendix 5 Chloride ion concentrations in soil of other regions .....	65

## 1. はじめに

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下、原子力機構）東濃地科学センターでは、高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究開発のうち、深地層の科学的研究（地層科学的研究）の一環として、結晶質岩（花崗岩）を対象とした超深地層研究所計画を 1996 年度から実施した。当初は、岐阜県瑞浪市の原子力機構用地（図 1-1：正馬様用地）において調査研究を進め、その後、2002 年 1 月に瑞浪市と土地の賃貸借契約を締結し、その市有地（図 1-1：瑞浪超深地層研究所用地；以下、研究所用地）に立坑や水平坑道等の地下施設および地上施設等からなる瑞浪超深地層研究所（以下、研究所）（図 1-2）を設置し、調査研究を進めた。

本計画における調査研究は 2019 年度をもって終了し、2020 年度以降においては、坑道の埋め戻し等を含めたその後の進め方について定めた「令和 2 年度以降の超深地層研究所計画」<sup>1)</sup>に基づき「瑞浪超深地層研究所の坑道埋め戻し等事業」を行っている。本事業においては、①研究所の坑道の埋め戻しおよび付随する地上設備を撤去する「坑道埋め戻しおよび原状回復業務」、②坑道の埋め戻しに伴う地下深部の地下水環境の回復過程および周辺環境への影響を確認する「環境モニタリング調査業務」、③地上からのボーリング孔の閉塞と環境モニタリング調査終了後に立坑坑口基礎コンクリート等を撤去する「モニタリング設備等撤去業務」を行う。

本報告書は、2024 年度に実施した「瑞浪超深地層研究所の坑道埋め戻し等事業」における②「環境モニタリング調査業務」のうち、研究所用地周辺の環境影響調査（研究所用地周辺の井戸における地下水位調査、研究所用地周辺河川流量測定、研究所用地放流先河川水の水質分析、研究所用地周辺騒音・振動調査、研究所用地周辺土壤調査）についての記録を取りまとめたものである。本事業で実施した 2020 年度から 2023 年度までの記録は、2024 年度までに報告した<sup>2),3),4)</sup>。

なお、市有地の土地賃貸借契約の終了以降、環境モニタリング調査等に必要な土地については、改めて必要な部分を賃借し「瑞浪用地」と呼称しているが、本報告書では便宜上、旧名称である「研究所用地」を用いる。

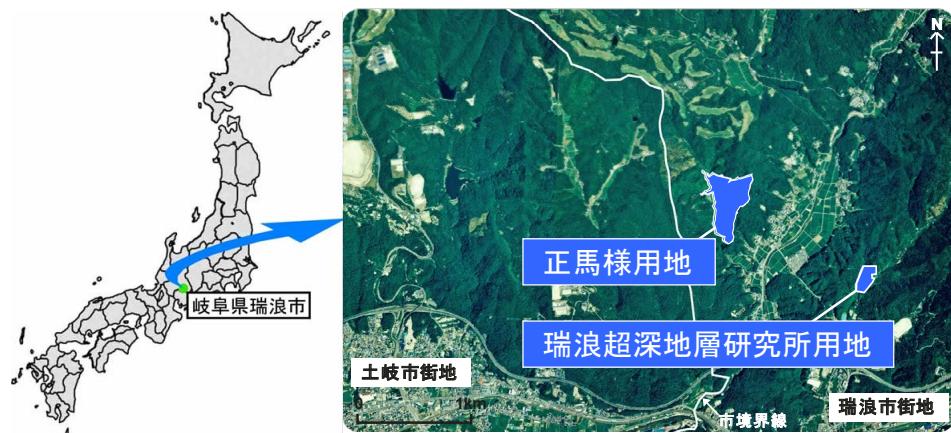


図1-1 正馬様用地、瑞浪超深地層研究所用地位置図

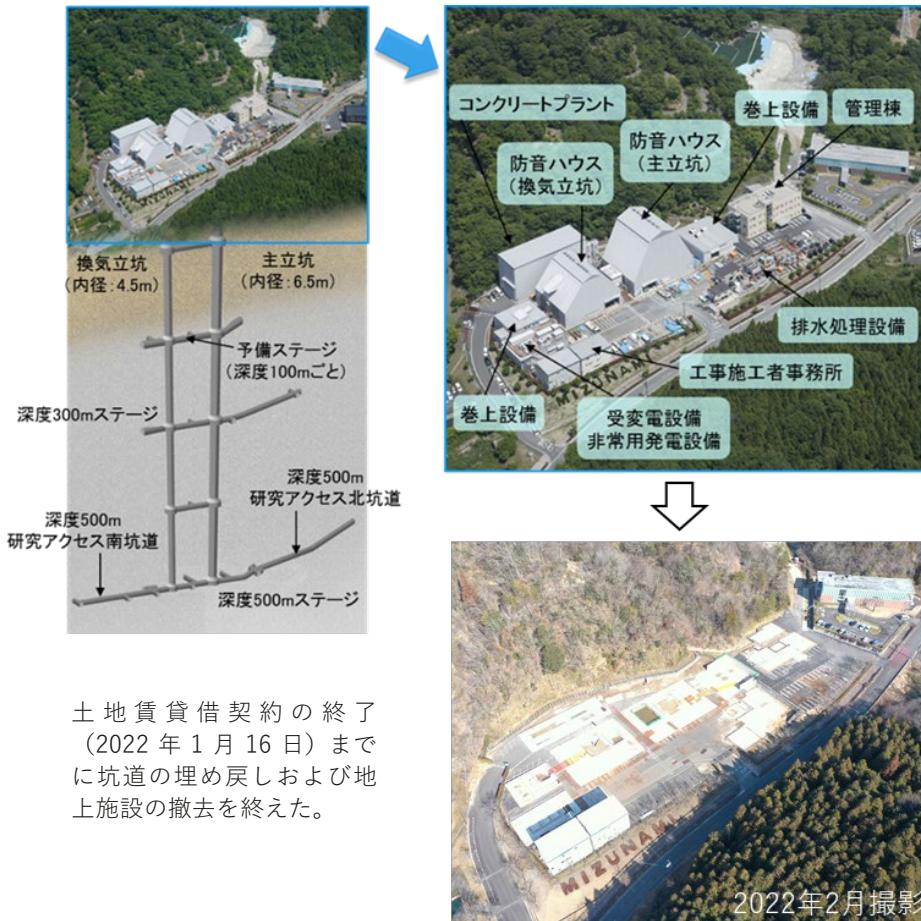


図1-2 瑞浪超深地層研究所の施設概要

## 2. 調査概要

### (1) 目的

研究所の坑道の埋め戻しおよび地上施設の撤去等の作業に伴う研究所用地周辺の環境への影響の有無を確認するため、(2)に示す研究所用地周辺の環境影響調査を実施する。

### (2) 調査の範囲

研究所用地周辺の環境影響調査では、以下の調査を実施した。

- 1) 研究所用地周辺の井戸における地下水位調査
- 2) 研究所用地周辺河川流量測定
- 3) 研究所用地放流先河川水の水質分析
- 4) 研究所用地周辺騒音・振動調査
- 5) 研究所用地周辺土壤調査

### 3. 調査結果

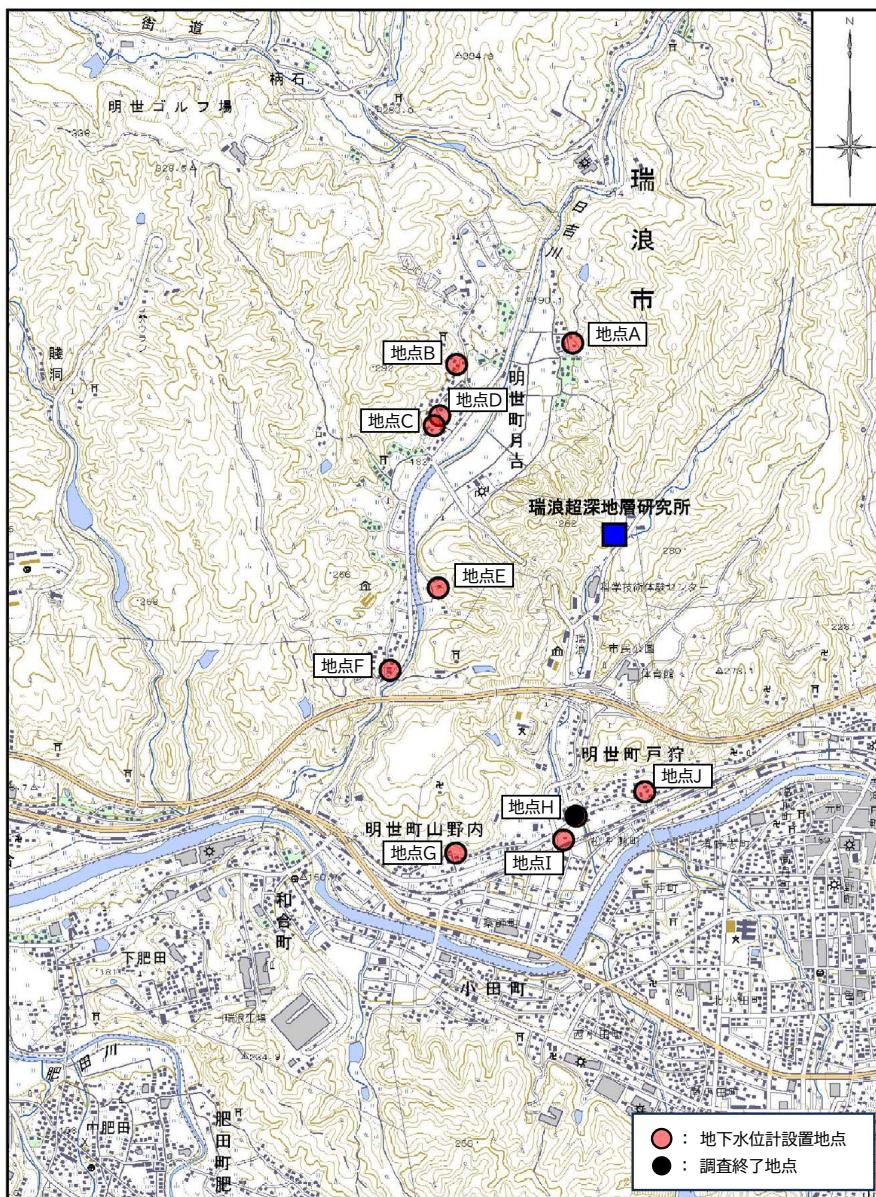
#### 3.1 研究所用地周辺の井戸における地下水位調査

研究所用地周辺の井戸 9 箇所に設置した水位計により、井戸の水位データを取得した。2024 年度における地下水位調査の結果を以下に示す。

##### 3.1.1 調査方法

###### (1) 調査場所

地下水位調査を実施した研究所用地周辺の井戸 9 箇所（地点 A～G, 地点 I～J）を図 3.1.1-1 に示す。なお、地点 H については、当該井戸の埋め戻しのため 2019 年 7 月に調査を終了している。



国土地理院発行「1/25,000地形図（土岐）（瑞浪）」に加筆

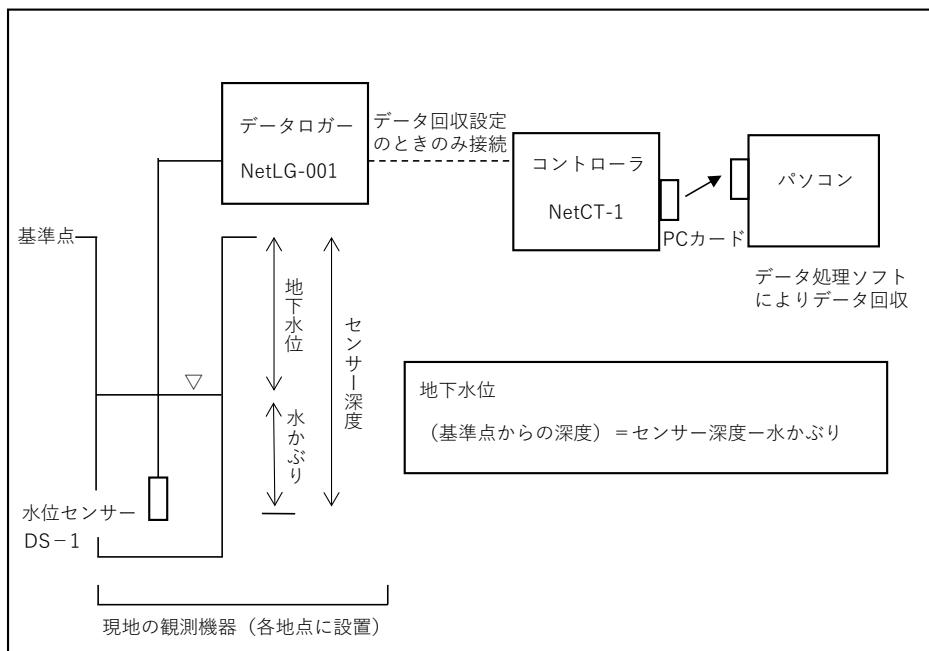
図3.1.1-1 調査地点位置図

## (2) 地下水位観測システムの構成

地下水位観測システムは、各井戸に設置した「水圧式水位センサー」（以下、水位センサー）、「水位データロガー」およびデータ回収の際に全地点で共通して用いる「コントローラ」、「データ処理ソフト」から構成される。観測機器は、(株)オサシ・テクノス製の水位センサー「DS-1」、水位データロガー「NetLG-001」、コントローラ「NetCT-1」を使用している。観測機器の仕様を表3.1.1-1、観測システムの概要図を図3.1.1-2に示す。

表3.1.1-1 観測機器仕様一覧

機器	型番	仕様	
水位センサー	(株)オサシ・テクノス製 DS-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>方式 半導体圧力式</li> <li>測定レンジ 10 m (地点A～G,J) 20 m (地点I)</li> <li>測定精度 <math>\pm 0.1\%FS</math>以下</li> <li>温度補償範囲 0～30°C</li> <li>許容過負荷 フルスケール×4倍</li> <li>外形寸法 <math>\phi 25 \times 127</math> mm</li> </ul>	
水位データロガー	(株)オサシ・テクノス製 NetLG-001	<ul style="list-style-type: none"> <li>測定精度 <math>\pm 0.1\%FS</math>以下</li> <li>記録間隔 1秒～24時間</li> <li>動作温度範囲 -20～55°C</li> <li>外形寸法 100×120×57.8 mm</li> <li>電源 リチウム電池×2個</li> </ul>	
コントローラ	(株)オサシ・テクノス製 NetCT-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信ポート数 1ポート</li> <li>PCカード フラッシュATAカード</li> <li>動作温度範囲 -10～55°C</li> <li>外形寸法 92×135×29 mm</li> <li>電源 リチウム電池×1個</li> </ul>	



## (3) 各井戸の諸元と水位センサー設置状況

各井戸の諸元および水位センサーの設置状況を表 3.1.1-2 に示す。

表3.1.1-2 各井戸の諸元および水位センサー設置状況

地点名	井戸諸元			水位センサー 設置深度 (m)
	井戸タイプ	深さ (m)	利用状況	
A	丸井戸	4.2	揚水なし	3.91
B	丸井戸	5.2	揚水なし	5.05
C	丸井戸	4.1	揚水なし	2.93
D	丸井戸	8.7	揚水なし	7.13
E	丸井戸	4.0	揚水なし	3.98
F	丸井戸	10.7	揚水なし	9.61
G	丸井戸	1.5	揚水なし	1.39
I	ボーリング井戸	81 (聴聞による)	揚水なし	66
J	丸井戸	13*	揚水あり (風呂)	9.57

\*井戸底から9.7 m付近まで泥のようなものがたまっている。

## (4) 測定方法

地下水位の測定は、井戸内に設置された水位センサーにより、水位センサーより上にある水の高さ(水かぶり)を圧力として感知する。この圧力が水位データロガーに電気信号として送られ、データロガー内に記録される。地下水位は、井戸ごとに水位測定の基準点(地表面、井戸上端等)を決め、水位センサー設置深度を把握しておくことで次式により求める。

$$\text{地下水位 (基準点からの深度)} = \text{水位センサー設置深度} - \text{水かぶり} \quad (\text{式 } 1)$$

## (5) データ回収およびデータ整理

データ回収には前記コントローラ「NetCT-1」を用いて、各調査地点の水位データロガーよりPCカードにデータを転送し、これをパソコンにて専用データ処理ソフト「PCカード水位データビューア」を用いてテキストデータに変換した後に、表計算ソフトで処理した。また、データ回収時には日時、天候、回収時の表示データ、設置状況、周辺状況の変化、電池状況等を現場記録

用紙に記入するとともに、手ばかりによる地下水位測定を実施して水位センサーの表示値と比較することで動作確認・校正管理を実施した。

地下水位データの整理にあたっては、降雨量に対する水位変動を把握するために各年度の水位データおよび国土交通省・日吉観測所での雨量観測記録<sup>5)</sup>（付録 1）を用いて表およびグラフを作成した。

### 3.1.2 調査結果

2024 年度における各調査地点の年間を通じての地下水位の変動、井戸水の汲み上げの有無との関係および降雨時の地下水位の反応の状況は以下のとおりである。また、2024 年度の各井戸の水位変動および経年変動を図 3.1.2-1～図 3.1.2-18 に示す。

**地点 A :** 2024 年度は人為的な揚水ではなく、降雨が少ない時は水位が緩やかに低下し降雨が多い時は水位上昇がみられた。2024 年度の最高水位は 0.29m、最低水位は 0.96 m であり、その変動幅は 0.67m であった。年平均水位は 0.65 m であった。2014 年度までの年平均水位は農業利用による揚水および水位低下時には近隣井戸から導水していたことから降雨量との関連付けは困難であるが、農業利用をしていない 2015 年以降は安定的である。

**地点 B :** 2024 年度は人為的な揚水はないが、5 月下旬に急激な水位変動が見られた。この急激な水位変動は、井戸所有者への聞き取り調査により人為的な要因でないことが判明しており、原因は不明である。2024 年度の最高水位は 0.85 m、最低水位は 2.44 m であり、その変動幅は 1.59 m であった。年平均水位は 1.03 m であった。本井戸は水位が 0.85 m 付近まで上昇するとオーバーフローする構造のため、0.85m より高い水位と降雨量との関連付けはできないが、0.85m より低い水位において降雨が少ない時は水位が緩やかに低下し、その後の降雨で水位が回復した。年平均水位は、立坑の掘削工事を開始した 2003 年以降、安定的で大きな変動はみられない。

**地点 C :** 2024 年度は人為的な揚水ではなく、降雨に対する応答が明瞭であった。降雨がない時期が続くと水位は緩やかに 1.00 m 付近まで下降し、降雨後は直ぐに水位上昇がみられた。2024 年度の最高水位は 0.50 m、最低水位は 1.12 m であり、その変動幅は 0.62 m であった。年平均水位は 0.87 m であった。立坑の掘削工事を開始した 2003 年以降、年平均水位は緩やかな変動がみられるが大きな変動はみられない。

**地点 D :** 2024 年度は人為的な揚水ではなく、降雨が少ない冬季に 1.00 m を下回る水位まで緩やかに下降したが、その後降雨が続き水位が直ぐに回復した。2024 年度の最高水位は 0.58 m、最低水位は 1.17 m であり、その変動幅は 0.59 m であった。年平均水位は 0.75 m であった。立坑の掘削工事を開始した 2003 年以降、年平均水位は緩やかな変動がみられるが大きな変動はみられない。

**地点 E :** 2024 年度は人為的な揚水ではなく、降雨に対する水位上昇が僅かに見られた。2024 年度の最高水位は 1.28 m、最低水位は 1.65 m であり、その変動幅は 0.37 m であった。年平均水位は 1.58 m であった。立坑の掘削工事を開始した 2003 年以降、年平均水位は緩やかな変動がみられるが大きな変動はみられない。

地点 F : 2024 年度は人為的な揚水はなく、降雨による水位変動が明瞭であった。2024 年度の最高水位は 4.63 m, 最低水位は 6.70 m であり、その変動幅は 2.07 m であった。年平均水位は 6.60 m であった。機器の不調によるデータの乱れの影響で年平均水位が低下した 2020 年度を除いて、概ね安定的で大きな変動はみられない。

地点 G : 2024 年度は人為的な揚水はなく、降雨に対する水位変動もみられずほぼ水位が安定していた。2024 年度の最高水位は 1.01 m, 最低水位は 1.03 m であり、その変動幅は 0.02 m であった。年平均水位は 1.02 m であった。立坑の掘削工事を開始した 2003 年以降、年平均水位は緩やかな変動がみられるが大きな変動はみられない。

地点 I : 2024 年度は人為的な揚水はなく、まとまった降雨時に突発的な水位の上昇がみられることがあったがそれ以外は年間を通じて緩やかな上昇傾向がみられた。2024 年度の最高水位は 5.50 m, 最低水位は 17.39 m であり、その変動幅は 11.89 m であった。年平均水位は 14.91 m であった。年平均水位は、人為的な揚水が行われていない 2017 年度以降では、2020 年度までは概ね安定的であり、それ以降は上昇傾向がみられる。

地点 J : 2024 年度は日常的に風呂用としての人為的な揚水があり、0.05~0.10 m 程度の小刻みな水位変動がみられた。また、降雨の影響による水位変動があるが、降雨後の水位上昇は他地点と比べると若干遅れる傾向がみられた。2024 年度の最高水位は 4.29 m, 最低水位は 8.82 m であり、その変動幅は 4.53 m であった。年平均水位は 7.43 m であった。立坑の掘削工事を開始した 2003 年以降、年平均水位は緩やかな変動がみられるが大きな変動はみられない。

これらの結果から、研究所の坑道埋め戻し等事業は、研究所用地周辺の井戸の地下水位に対して問題となる影響を与えていないものと考えられる。

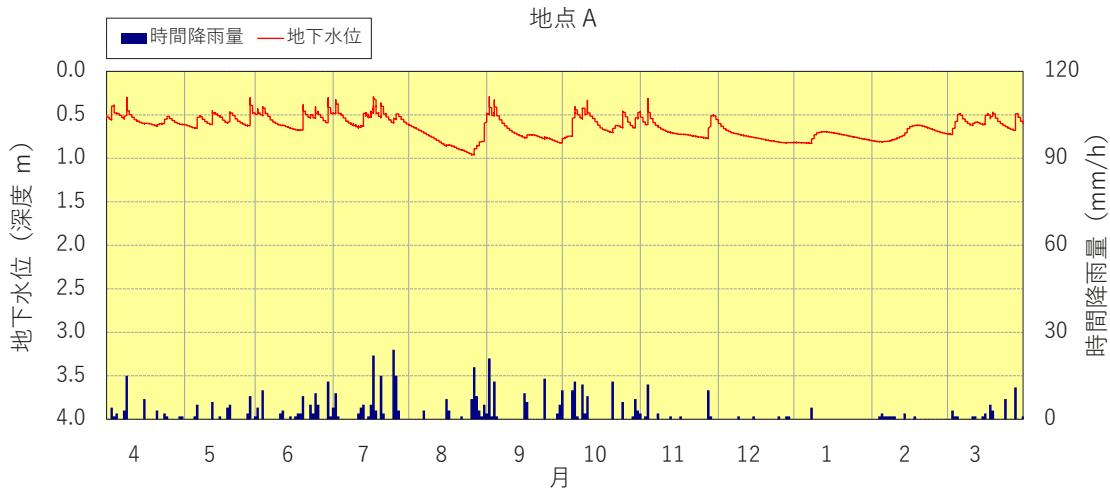
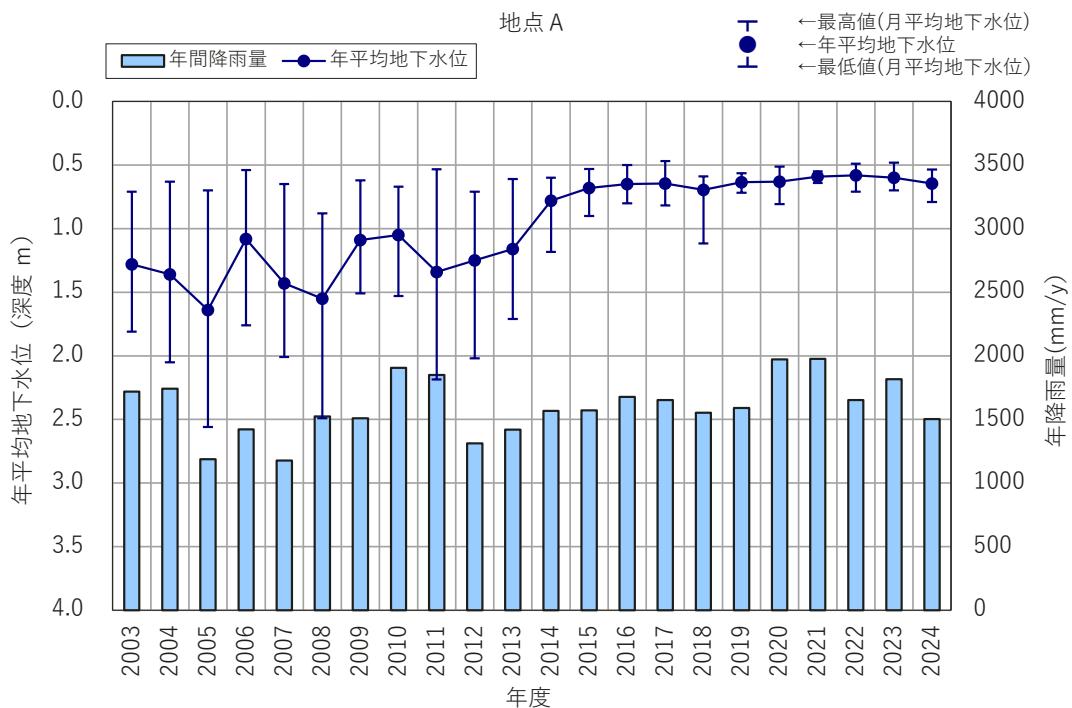


図3.1.2-1 地下水位変動図 地点A（2024年度）



2003～2019年度の年平均地下水位は、各年度の前年度3月1日から当該年度2月末までのデータの集計。

2020年度の年平均地下水位は、2020年3月1日から2021年3月末までのデータの集計。

2021年度以降の年平均地下水位は、当該年度4月1日から3月末までのデータの集計。

図3.1.2-2 地下水位経年変動図 地点A

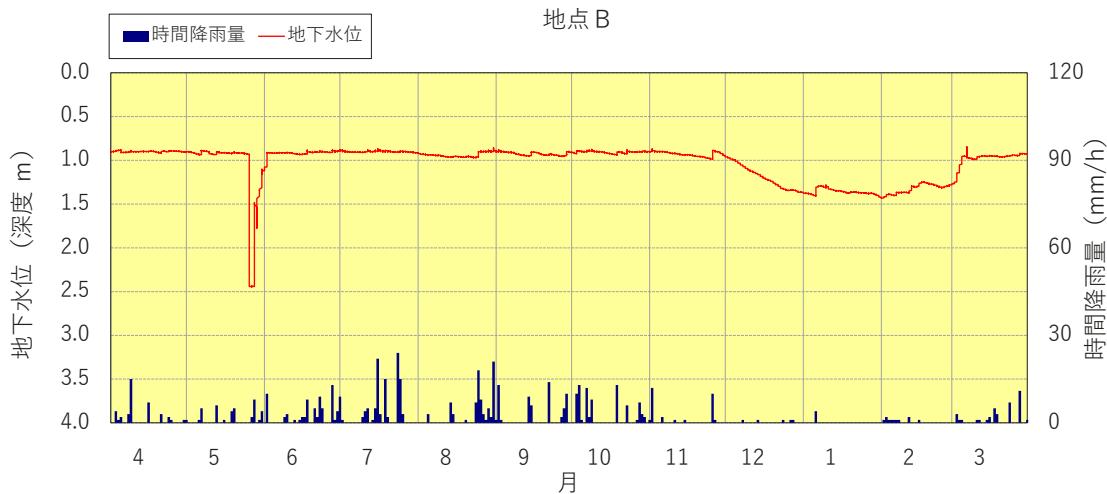
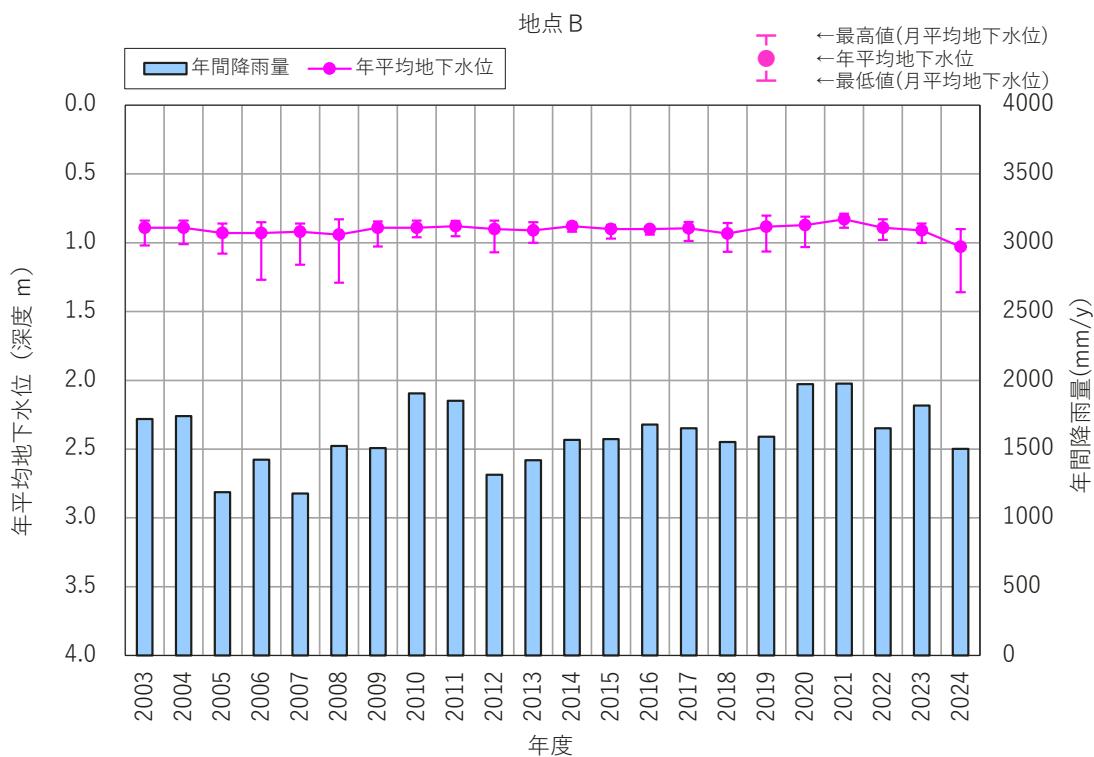


図3.1.2-3 地下水位変動図 地点B（2024年度）



2003～2019年度の年平均地下水位は、各年度の前年度3月1日から当該年度2月末までのデータの集計。

2020年度の年平均地下水位は、2020年3月1日から2021年3月末までのデータの集計。

2021年度以降の年平均地下水位は、当該年度4月1日から3月末までのデータの集計。

図3.1.2-4 地下水位経年変動図 地点B

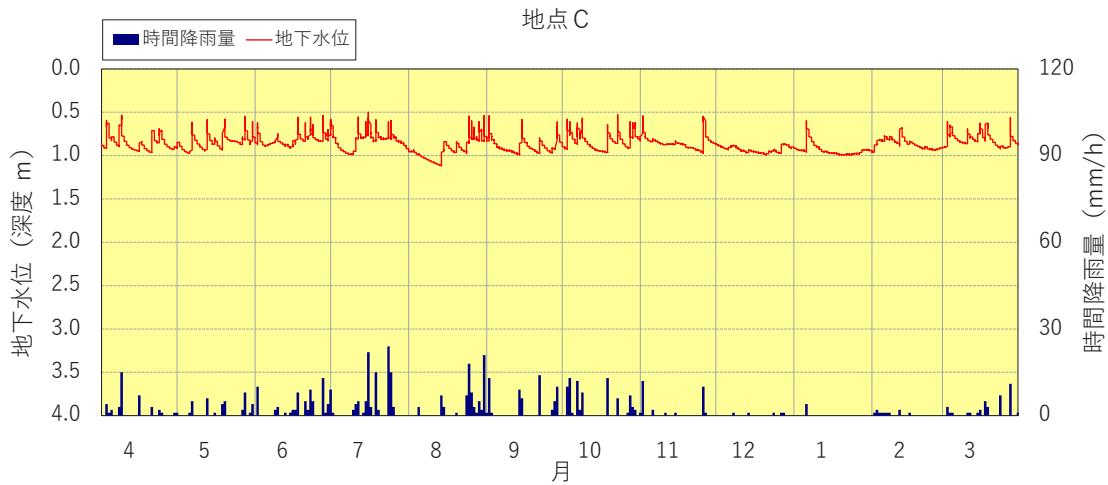
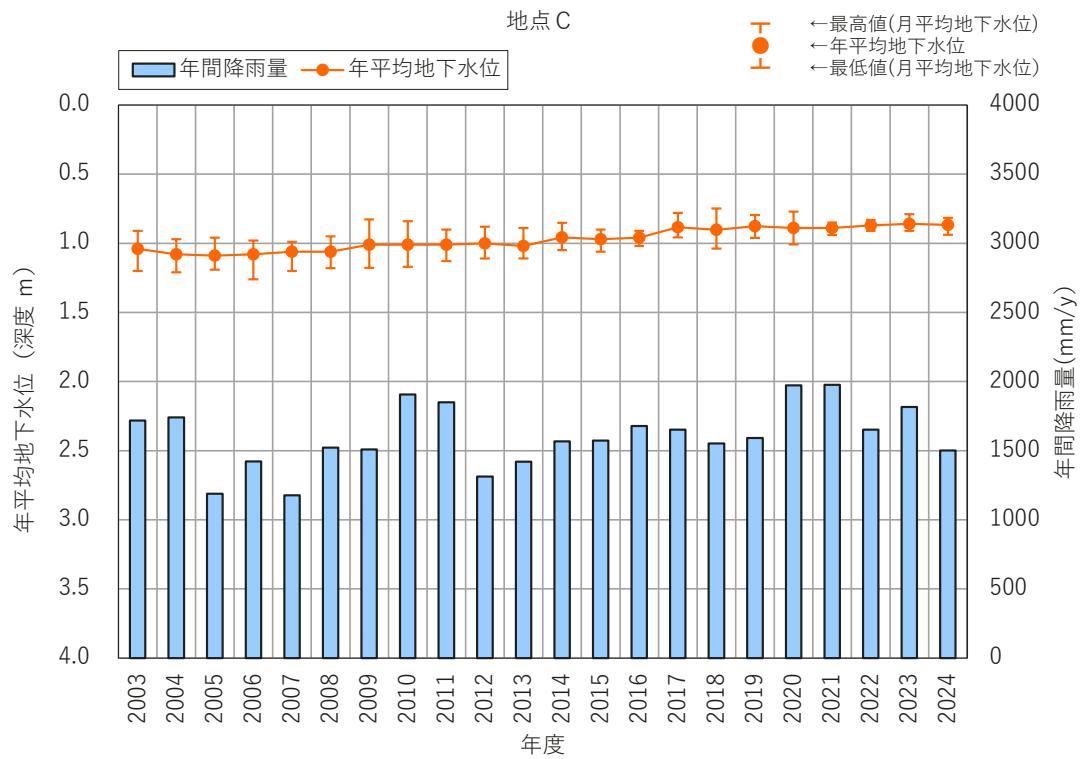


図3.1.2-5 地下水位変動図 地点C (2024年度)



2003～2019年度の年平均地下水位は、各年度の前年度3月1日から当該年度2月末までのデータの集計。

2020年度の年平均地下水位は、2020年3月1日から2021年3月末までのデータの集計。

2021年度以降の年平均地下水位は、当該年度4月1日から3月末までのデータの集計。

図3.1.2-6 地下水位経年変動図 地点C

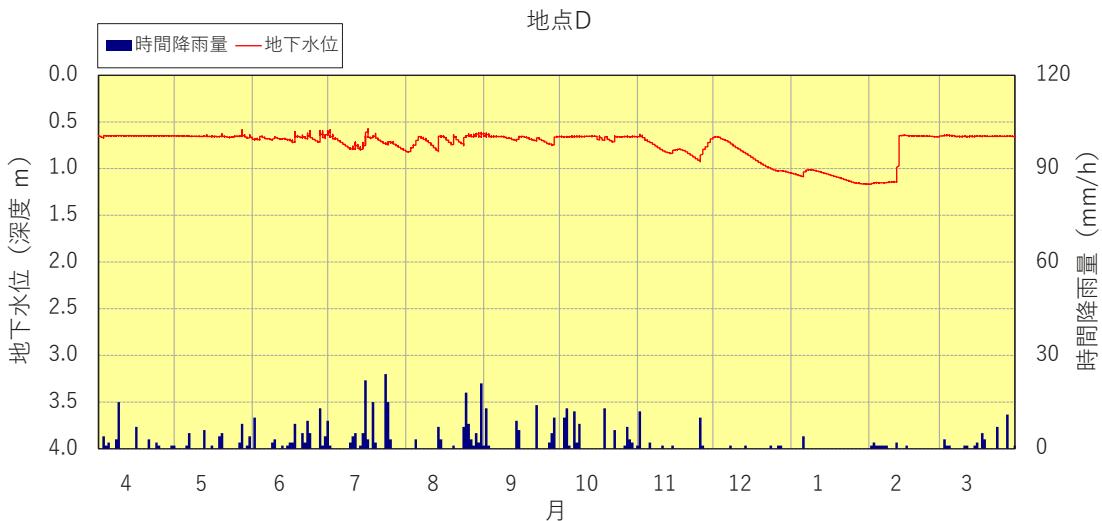
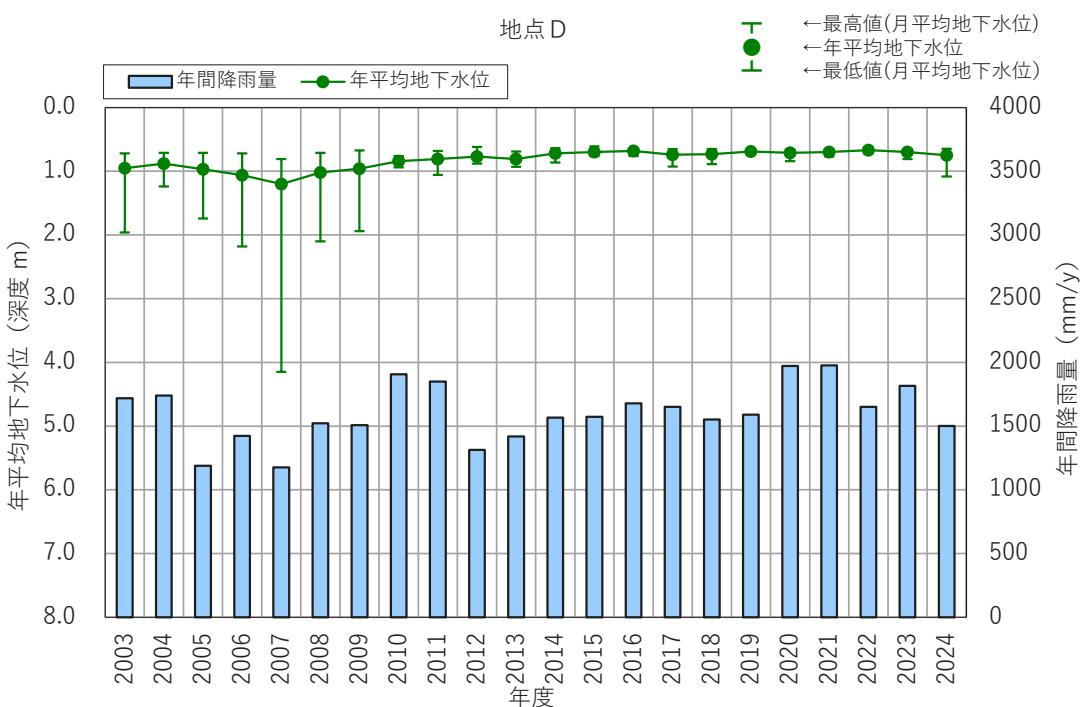


図3.1.2-7 地下水位変動図 地点D (2024年度)



2003～2019年度の年平均地下水位は、各年度の前年度3月1日から当該年度2月末までのデータの集計。

2020年度の年平均地下水位は、2020年3月1日から2021年3月末までのデータの集計。

2021年度以降の年平均地下水位は、当該年度4月1日から3月末までのデータの集計。

図3.1.2-8 地下水位変動図 地点D

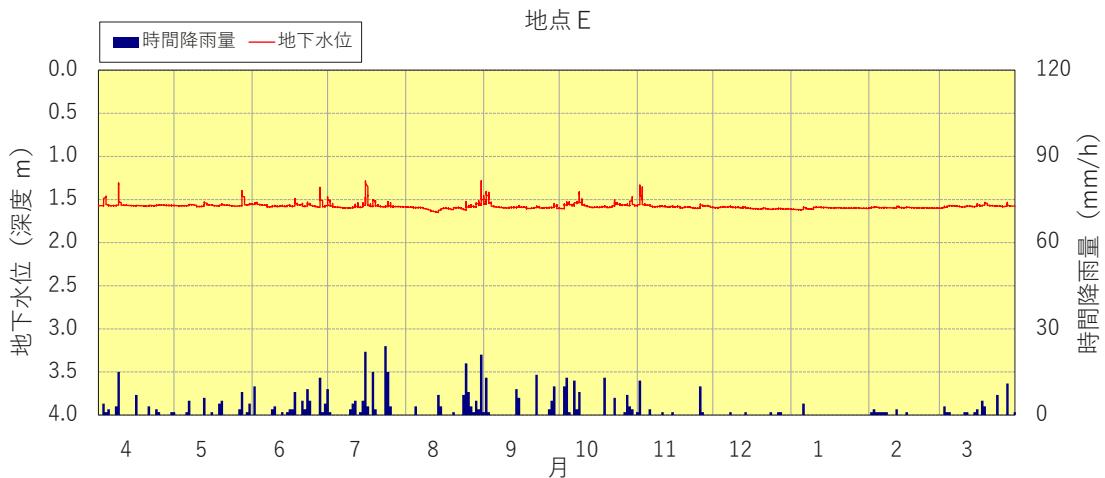
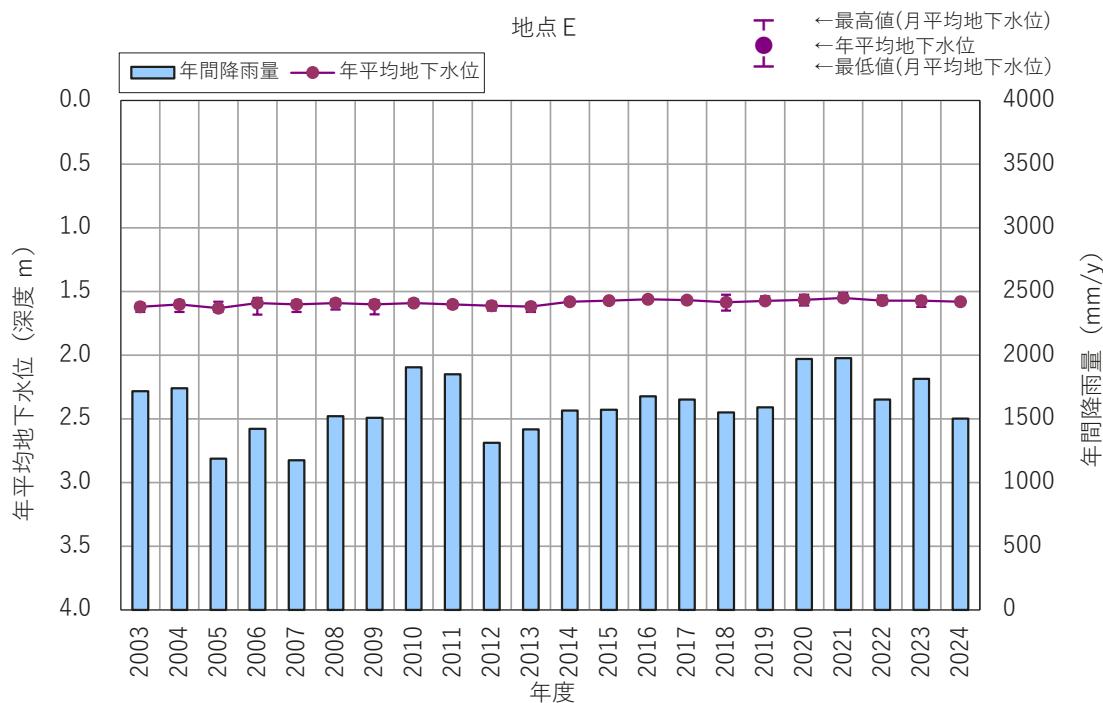


図3.1.2-9 地下水位変動図 地点E（2024年度）



2003～2019年度の年平均地下水位は、各年度の前年度3月1日から当該年度2月末までのデータの集計。

2020年度の年平均地下水位は、2020年3月1日から2021年3月末までのデータの集計。

2021年度以降の年平均地下水位は、当該年度4月1日から3月末までのデータの集計。

図3.1.2-10 地下水位経年変動図 地点E

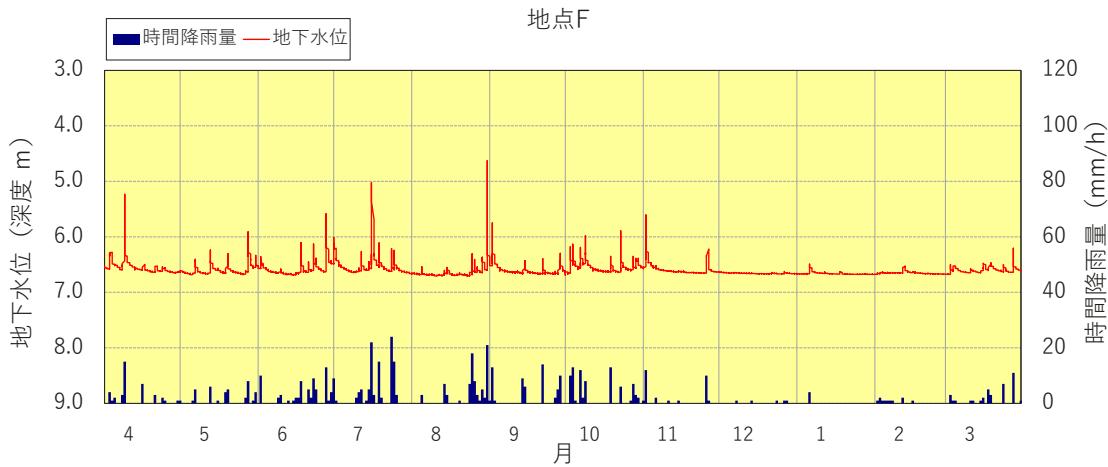
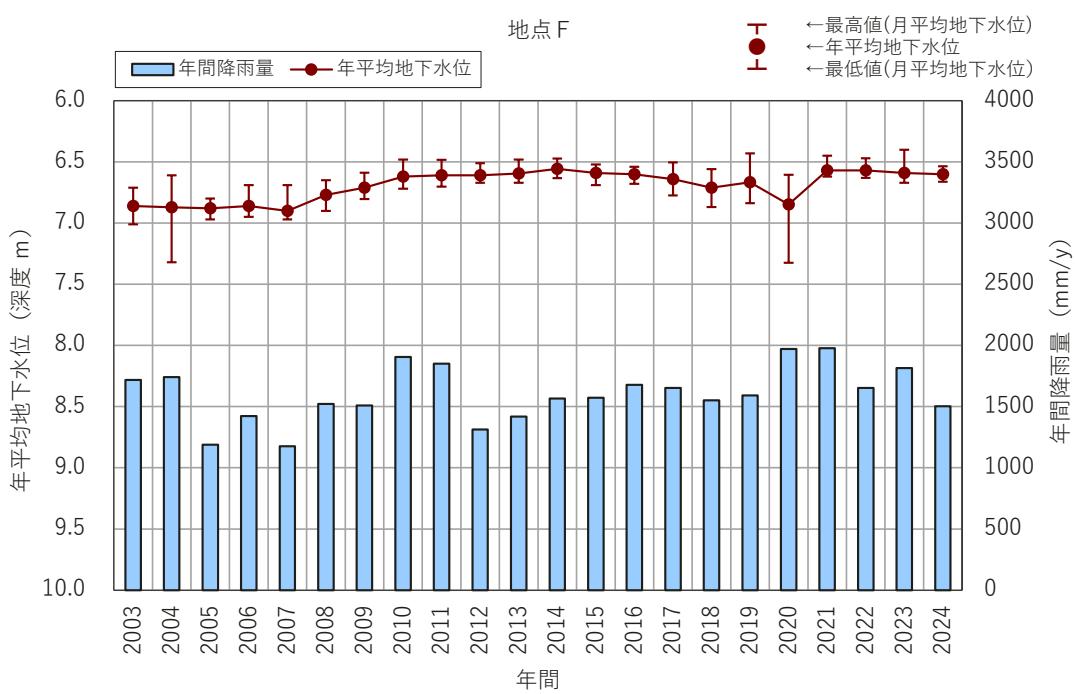


図3.1.2-11 地下水位変動図 地点F（2024年度）



2003～2019年度の年平均地下水位は、各年度の前年度3月1日から当該年度2月末までのデータの集計。

2020年度の年平均地下水位は、2020年3月1日から2021年3月末までのデータの集計。

2021年度以降の年平均地下水位は、当該年度4月1日から3月末までのデータの集計。

図3.1.2-12 地下水位経年変動図 地点F

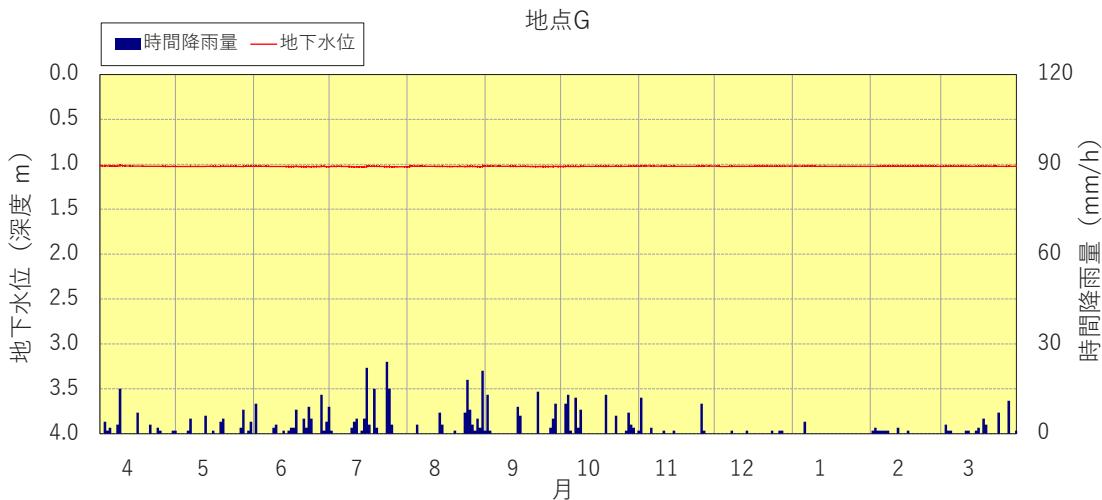
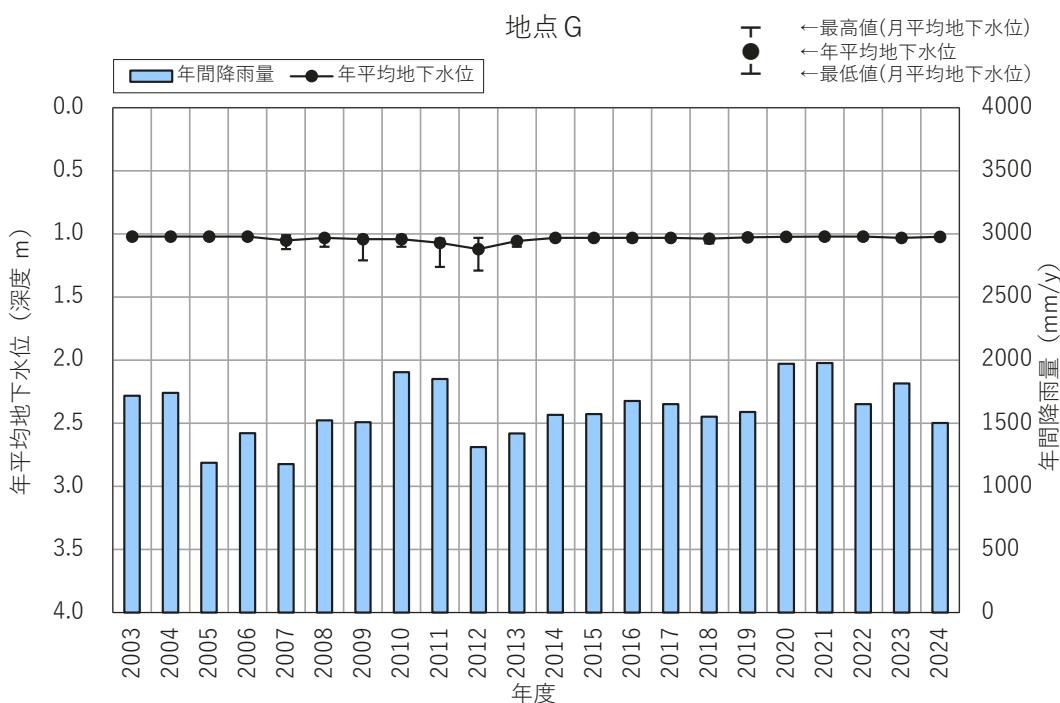


図3.1.2-13 地下水位変動図 地点G (2024年度)



2003～2019年度の年平均地下水位は、各年度の前年度3月1日から当該年度2月末までのデータの集計。

2020年度の年平均地下水位は、2020年3月1日から2021年3月末までのデータの集計。

2021年度以降の年平均地下水位は、当該年度4月1日から3月末までのデータの集計。

図3.1.2-14 地下水位経年変動図 地点G

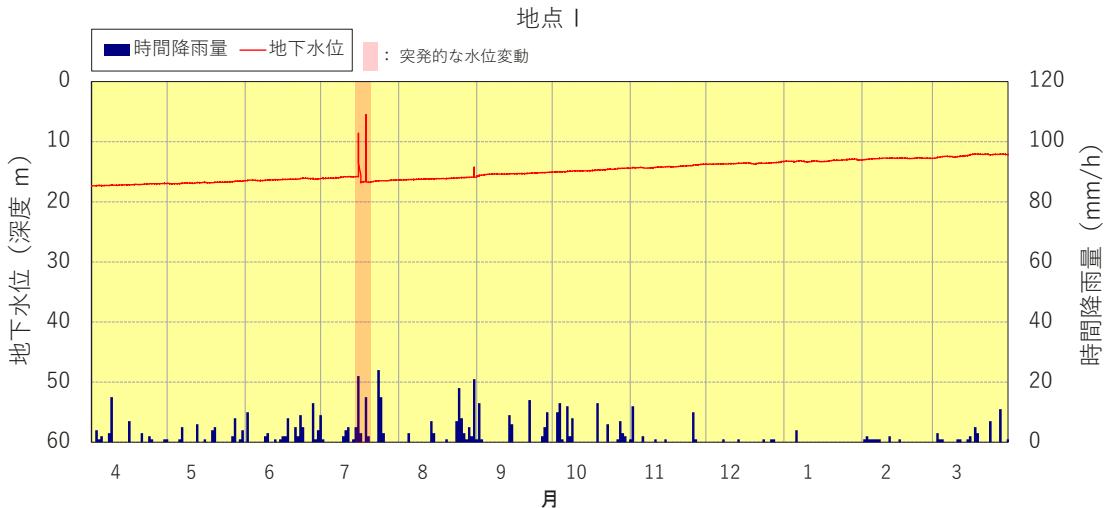
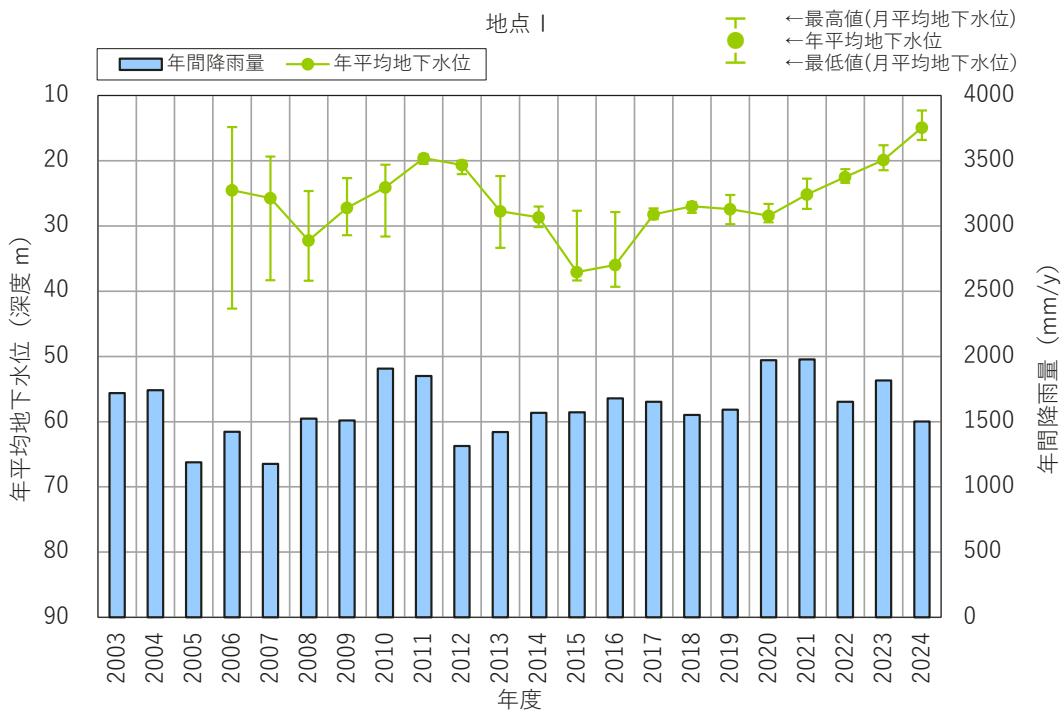


図3.1.2-15 地下水位変動図 地点I (2024年度)



2003～2005年度は、人為的な揚水により地下水位の変動が水位計の測定範囲を超え、データ欠測期間を含むため、未記載とした。

2003～2019年度の年平均地下水位は、各年度の前年度3月1日から当該年度2月末までのデータの集計。

2020年度の年平均地下水位は、2020年3月1日から2021年3月末までのデータの集計。

2021年度以降の年平均地下水位は、当該年度4月1日から3月末までのデータの集計。

図3.1.2-16 地下水位経年変動図 地点I

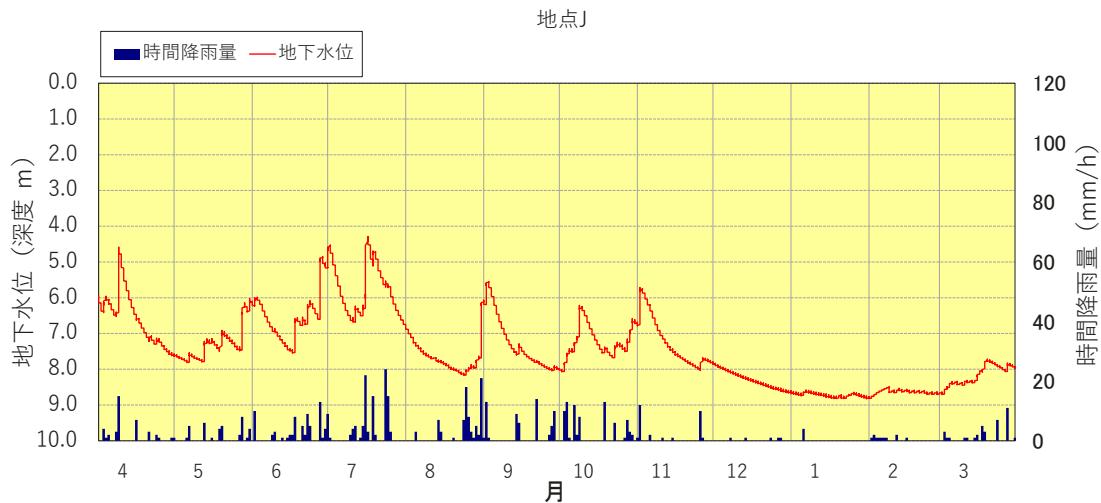
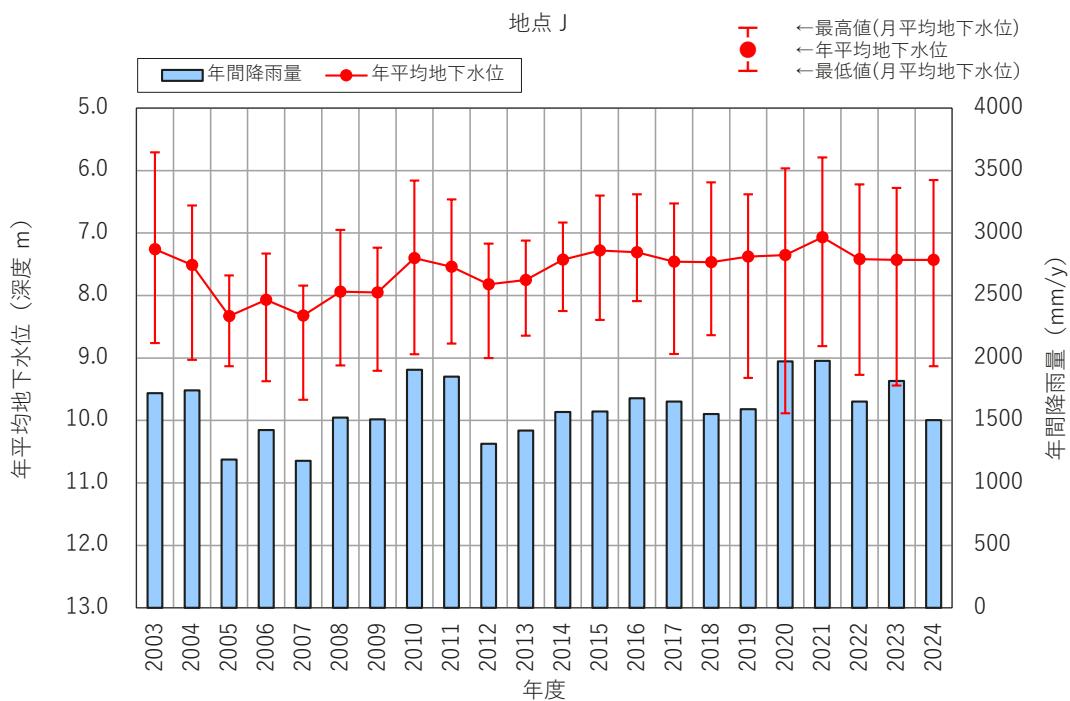


図3.1.2-17 地下水位変動図 地点J (2024年度)



2003～2019年度の年平均地下水位は、各年度の前年度3月1日から当該年度2月末までのデータの集計。

2020年度の年平均地下水位は、2020年3月1日から2021年3月末までのデータの集計。

2021年度以降の年平均地下水位は、当該年度4月1日から3月末までのデータの集計。

図3.1.2-18 地下水位経年変動図 地点J

### 3.2 研究所用地周辺河川流量測定

研究所用地周辺の河川（狭間川）の研究所用地から上流の2箇所、下流の2箇所の合計4箇所において河川流量測定を行った。2024年度における河川流量測定の結果を以下に示す。

#### 3.2.1 測定方法

##### (1) 測定地点

測定地点は、研究所用地の上流側（上流地点）、研究所用地近傍（中流地点）、研究所用地の下流（下流地点）、明世小学校近傍（明世小学校前地点）の4箇所である。測定地点および流域図を図3.2.1-1に示す。

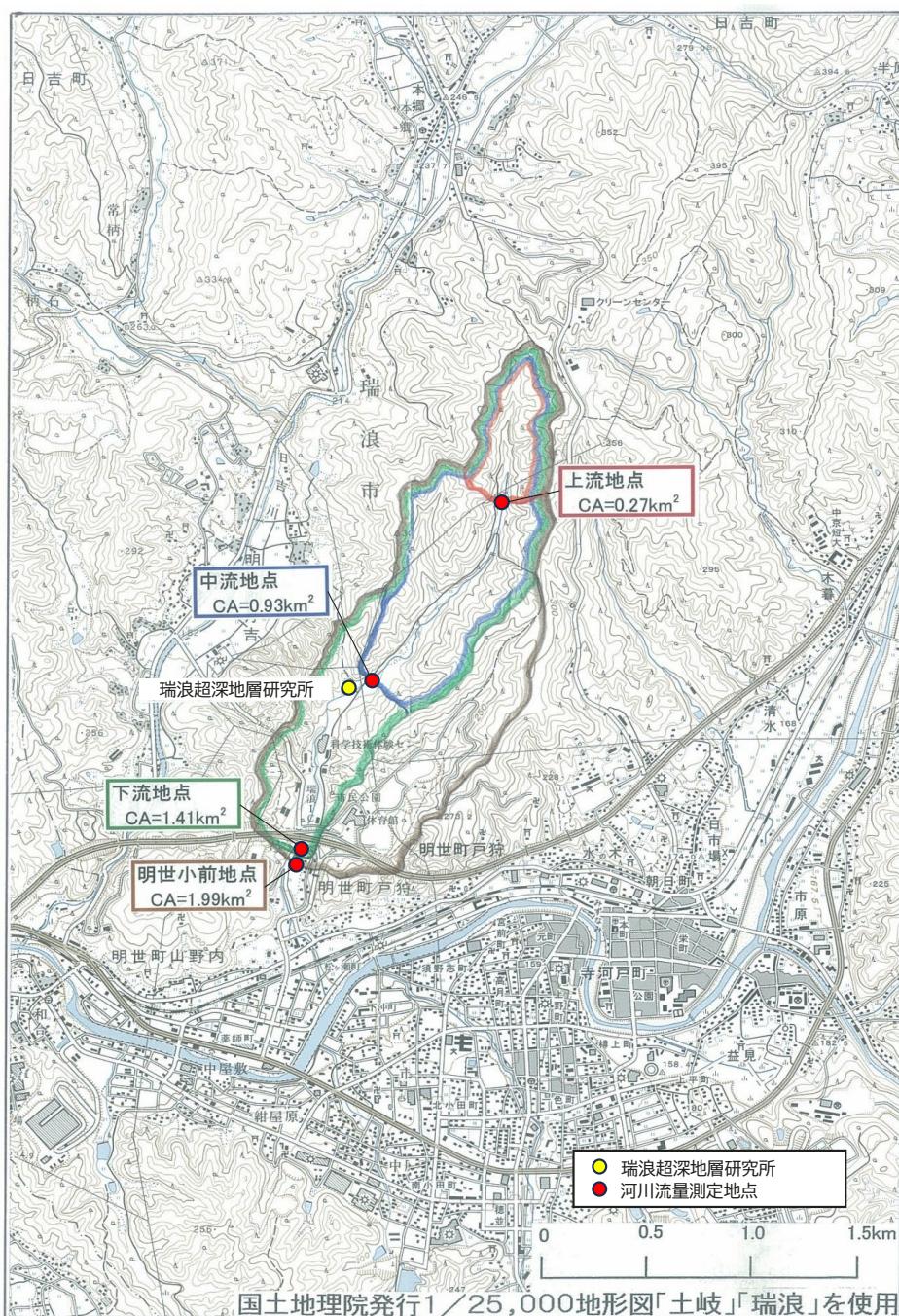


図3.2.1-1 各河川流量測定地点および流域図

## (2) 河川流量測定における使用機器

### 1) 水位測定

水位の測定においては、水位標および水位計を使用している（図 3.2.1-2）。水位計は、（株）オサシ・テクノス製の水位センサー「DS-1」、水位データロガー「NetLG-001」、コントローラ「NetCT-1」を使用している。水位センサーの仕様を表 3.2.1-1 に示す。



図3.2.1-2 上流地点の水位標・水位計設置状況

表3.2.1-1 水位センサーの仕様

機器	型番	仕様
水位センサー （株）オサシ・テクノス製 DS-1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・方式 半導体圧力式</li> <li>・測定レンジ 10 m</li> <li>・測定精度 <math>\pm 0.1\text{FS}</math>以下</li> <li>・温度補正範囲 0~30°C</li> <li>・許容過負荷 フルスケール×4倍</li> <li>・外径寸法 <math>\phi 25 \times 127 \text{ mm}</math></li> </ul>

### 2) 流速測定

河川流速の測定においては、（株）ケネック製の電磁流速計（検出器 LPT-325、表示器 LP40）を使用している。検出器の仕様を表 3.2.1-2 に示す。

表3.2.1-2 検出器の仕様

機器	型番	仕様
電磁流速計 （株）ケネック製 検出器 LPT-325		<ul style="list-style-type: none"> <li>・検出方法 電磁式</li> <li>・最低使用水深 25 mm</li> <li>・防耐水圧 196 kPa (20 m水深相当)</li> <li>・水温範囲 0~+40°C</li> <li>・検出器形状 <math>\phi 25 \text{ mm}</math>, 全長約95 mm</li> </ul>

### (3) 測定方法

河川流量測定にあたり、水位（H）と流量（Q）の関係を示す水位流量曲線（H-Q 曲線）を予め求めておき、この関係を用いて測定した水位から流量を算出する方法を用いた。水位流量曲線の作成にあたっては、当該年度および前年度の各測定地点の水位・流速測定に基づく河川流量測定結果を用いて、最小二乗法によって求めた。出水等の原因により水位測定の横断面に変化が生じたと認められるときは、水位流量曲線を更新した。河川流量測定における、水位および流速の測定方法を以下の 1), 2) に示す。

2024 年度の各測定地点の水位・流速測定に基づく河川流量測定結果については付録 2 に示す。

#### 1) 水位測定

水位の測定は、各地点に設置された水位標の値を読み取るとともに、水位計に表示された水位との確認を行った。水位標による読み取り値と水位計の測定値に誤差が生じた場合には、水位計本体の微調整を行った。水位計における測定は、10 分間隔で連続測定を行った。

#### 2) 流速測定

流速の測定は、直接河川に入川し、「発電水力流量調査の手引き（一般社団法人電力土木技術協会 2001 年版）」<sup>6)</sup>（以下、手引き）に示す流速測定法の精密法により実施した。横断方向の断面割（測線配置）は、横断方向の水面幅に対し、原則として等間隔になるように選定した。狭間川の場合、水面幅は 10 m 以下であるため、測点は水面幅の概ね 10% ピッチとした。鉛直測線上の測点の配置は、水深が浅く 2 点法による測定が困難であったため、水面より水深の 6 割の位置に選定する 1 点法とした。流速の測定時間は「手引き」に基づき 40 秒の平均流速を 3 回測定し、その中央値を採用した。流速測定の状況を図 3.2.1-3 に示す。



図3.2.1-3 流速測定の状況

### (4) 河川流量測定実施日

河川流量測定は、4 月および 11 月から翌年 3 月までは 1 回／月、5 月から 10 月までは 2 回／月の頻度で実施することを原則としている。2024 年度は、表 3.2.1-3 に示す日に実施した。なお、水位計による水位データの回収は、毎月 1 回、5 月から 10 月までの間は 1 回目の河川流量測定時に実施した。

表3.2.1-3 河川流量測定実施日

	実施日		実施日
1	2024年4月2日	10	2024年9月3日
2	2024年5月7日	11	2024年9月18日
3	2024年5月20日	12	2024年10月1日
4	2024年6月4日	13	2024年10月9日
5	2024年6月18日	14	2024年11月5日
6	2024年7月2日	15	2024年12月2日
7	2024年7月30日	16	2025年1月7日
8	2024年8月6日	17	2025年2月4日
9	2024年8月28日	18	2025年3月4日

### (5) データ回収およびデータ整理

4月および11月から翌年3月までは毎月の測定時に、5月から10月までは毎月2回の測定のうち1回目の測定時に水位計のPCカードに収録されたデータをパソコンに記録した。データ整理においては、水位計による10分間隔の値を用いた。

## 3.2.2 測定結果

各河川流量測定地点における2024年度の測定結果および過年度との比較を表3.2.2-1に、年間平均流量の経年変動を図3.2.2-1に示す。また、研究所用地周辺の2024年度の年間降雨量（国土交通省・日吉観測所のデータ<sup>5)</sup>）の結果を付録3に示す。2024年度の年間降雨量は1,502 mm/yであり、2023年度の年間降雨量1,818 mm/yおよび2003年度から2024年度の平均値1,700 mm/yよりも少ない雨量であった（付録3）。

2024年度の河川流量測定では、上流地点の年間平均流量は2023年度の年間平均流量と同等であった。上流地点以外の河川流量測定地点（中流地点、下流地点、明世小学校前地点）では、2024年度の年間平均流量が2023年度の年間平均流量を下回った。過年度（上流・中流・下流地点：2003～2023年度、明世小学校前地点：2009～2023年度、以下同様）の平均値との比較では、2024年度の全ての河川流量測定地点（4箇所）の年間平均流量が、過年度の年間平均流量を下回った。経年変動としては、2024年度の河川流量測定地点（4箇所）の年間平均流量は、全ての地点で過年度の変動の範囲内であった。

なお、研究所の坑道の埋め戻し工事の進捗に伴い、坑道からの湧水および工事に伴う排出水がなくなったことから、2021年5月以降、研究所からの排出水の放流先河川への放流はない。

これらの結果から、研究所の坑道埋め戻し等事業は、放流先河川の河川流量に問題となる影響を与えていないものと考えられる。

表3.2.2-1 河川流量測定結果（2024年度）

年度	上流地点 (流量 m <sup>3</sup> /s)			中流地点 (流量 m <sup>3</sup> /s)		
	平均	最大	最小	平均	最大	最小
2003年度	0.018	0.275	0.007	0.038	0.759	0.009
2004年度	0.011	1.021	0.003	0.030	1.192	0.005
2005年度	0.006	0.109	0.001	0.013	0.410	0.001
2006年度	0.008	0.306	0.001	0.025	0.827	0.006
2007年度	0.007	0.290	0.001	0.023	1.193	0.006
2008年度	0.015	1.004	0.002	0.029	1.453	0.004
2009年度	0.011	0.464	0.001	0.025	0.545	0.001
2010年度	0.015	0.623	0.001	0.033	1.935	0.001
2011年度	0.013	1.145	0.001	0.044	4.751	0.002
2012年度	0.009	0.353	0.003	0.019	0.590	0.005
2013年度	0.009	0.404	0.003	0.029	1.306	0.005
2014年度	0.012	0.479	0.003	0.034	1.181	0.013
2015年度	0.010	0.148	0.003	0.032	0.275	0.003
2016年度	0.011	0.964	0.003	0.028	2.390	0.001
2017年度	0.015	1.045	0.001	0.029	1.522	0.003
2018年度	0.009	0.390	0.001	0.028	0.909	0.002
2019年度	0.009	0.594	0.001	0.035	2.671	0.004
2020年度	0.013	0.886	0.002	0.038	3.016	0.002
2021年度	0.013	1.410	0.002	0.040	2.960	0.003
2022年度	0.008	0.529	0.001	0.031	1.906	0.004
2023年度	0.010	0.830	0.001	0.025	2.486	0.002
2003～2023年度の 平均	0.011	0.632	0.002	0.030	1.632	0.004
2003～2023年度の 中央値	0.011	0.529	0.001	0.029	1.306	0.003
2024年度	0.010	0.384	0.001	0.019	0.565	0.002
年度	下流地点 (流量 m <sup>3</sup> /s)			明世小学校前地点 (流量 m <sup>3</sup> /s)		
	平均	最大	最小	平均	最大	最小
2003年度	0.047	3.401	0.003	—	—	—
2004年度	0.062	9.427	0.003	—	—	—
2005年度	0.022	0.930	0.003	—	—	—
2006年度	0.048	1.398	0.005	—	—	—
2007年度	0.043	2.402	0.004	—	—	—
2008年度	0.059	10.515	0.005	—	—	—
2009年度	0.047	2.947	0.014	0.062	1.030	0.013
2010年度	0.052	7.538	0.008	0.075	8.627	0.008
2011年度	0.054	7.747	0.007	0.089	7.940	0.008
2012年度	0.045	4.779	0.001	0.065	5.146	0.009
2013年度	0.062	14.642	0.003	0.079	5.193	0.022
2014年度	0.086	19.023	0.007	0.097	7.422	0.024
2015年度	0.059	2.581	0.007	0.078	3.793	0.020
2016年度	0.060	18.309	0.003	0.090	10.306	0.020
2017年度	0.070	20.177	0.002	0.094	11.893	0.024
2018年度	0.048	4.415	0.008	0.084	5.287	0.020
2019年度	0.063	11.238	0.010	0.099	13.936	0.016
2020年度	0.066	11.381	0.007	0.090	11.196	0.011
2021年度	0.070	12.368	0.010	0.096	13.240	0.015
2022年度	0.058	8.445	0.014	0.084	8.522	0.010
2023年度	0.059	16.113	0.013	0.082	16.873	0.016
2003～2023年度の 平均	0.056	9.037	0.007	0.084	8.694	0.016
2003～2023年度の 中央値	0.059	8.445	0.007	0.084	8.522	0.016
2024年度	0.049	3.922	0.013	0.072	4.926	0.014



図3.2.2-1 各河川流量測定地点における年間平均流量の変動

### 3.3 研究所用地放流先河川水の水質分析

2024年度は、研究所からの排出水の放流先河川であった狭間川の2箇所から試料を採取し水質分析を行った。2024年度における狭間川の水質分析結果を以下に示す。

なお、研究所からの排出水および湧水の水質分析については、研究所の坑道の埋め戻し工事の進捗に伴い坑道からの湧水がなくなったことから、湧水の水質分析は2021年4月、排出水の水質分析は同年5月で終了した。

#### 3.3.1 調査方法

##### (1) 調査範囲

- ・2021年5月まで排出水を放流していた狭間川の狭間川上流部、狭間川下流部から毎月1回試料を採取し水質分析を行う（以下、放流先河川水の月1回検査）。
- ・2021年5月まで排出水を放流していた狭間川の狭間川上流部、明世小学校前から毎週1回試料を採取し、塩化物イオン濃度を測定する（以下、塩化物イオン測定）。

##### (2) 調査場所

###### 1) 放流先河川水の月1回検査

試料採取地点を表3.3.1-1および図3.3.1-1に示す。試料採取地点は、研究所から放流していた当時の排出水の放流先地点の上流部と下流部の2箇所である。試料採水の状況を図3.3.1-2に示す。

表3.3.1-1 試料採取地点（放流先河川水の月1回検査）

種別	採水地点名称	採取地点	備考
放流先河川水	狭間川上流部	狭間川の研究所用地上流部	—
	狭間川下流部	狭間川の研究所用地下流部	—
排出水	排出口	放流先河川手前の排水口	2021年5月で終了
湧水	排水プラント	排水プラント沈砂槽への流入口	2021年4月で終了

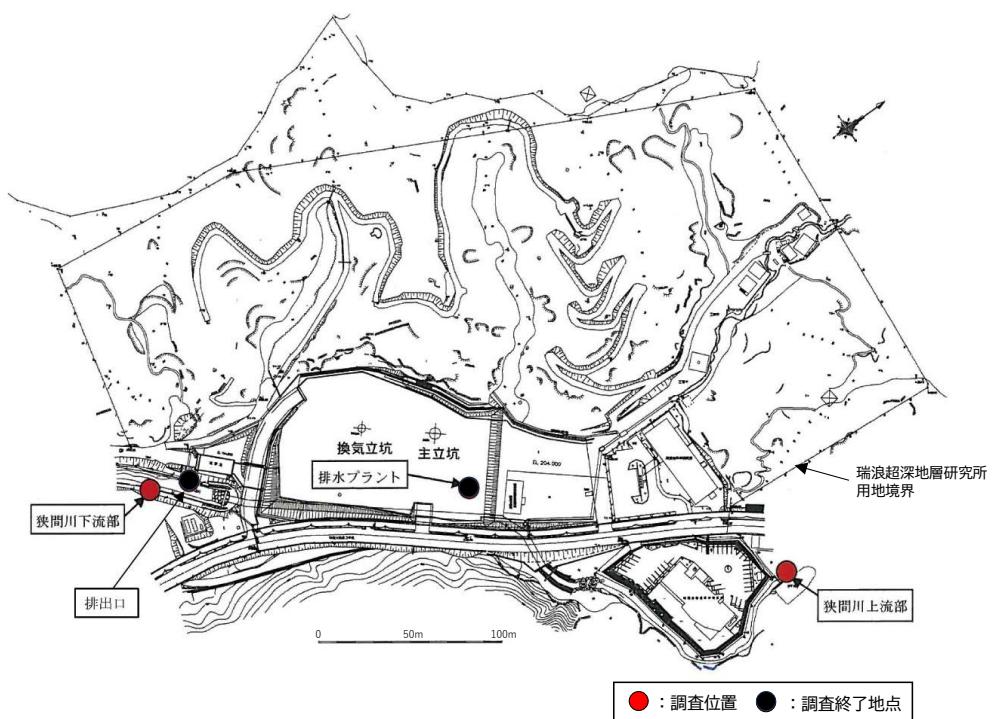


図3.3.1-1 試料採取地点図（放流先河川水の月1回検査）



図 3.3.1-2 試料採取の状況（狭間川上流部）

## 2) 塩化物イオン測定

塩化物イオン測定における試料採取地点を表 3.3.1-2 および図 3.3.1-3 に示す。2024 年度の塩化物イオン測定の試料採取地点は、狭間川の明世小学校前取水口付近と放流先河川水の月 1 回検査の試料採取地点（図 3.3.1-1）のうち狭間川上流部の 2 箇所である。

表3.3.1-2 試料採取地点（塩化物イオン測定）

種別	採水地点名称	採取地点	備考
放流先河川水	狭間川上流部	狭間川の研究所用地上流部	—
	明世小学校前取水口	狭間川の明世小学校前の取水口	—
排出水	排出口	放流先河川手前の排水口	2021年5月で終了
湧水	排水プラント	排水プラント沈砂槽への流入口	2021年4月で終了

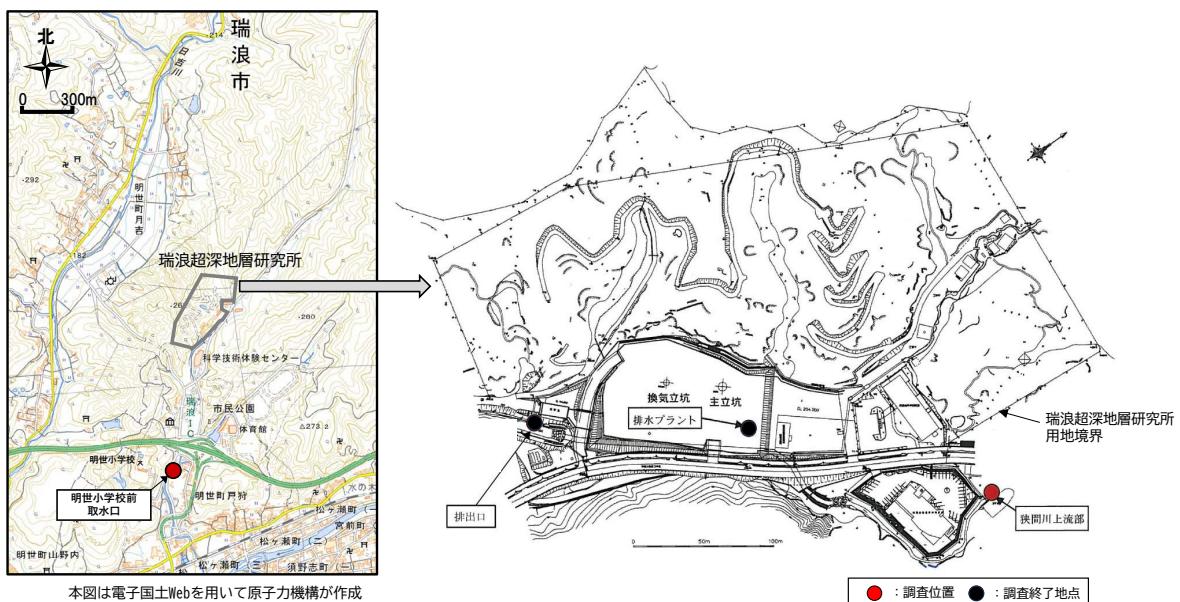


図3.3.1-3 試料採取地点図（塩化物イオン測定）

## (3) 測定項目

放流先河川水の月1回検査の分析項目を表3.3.1-3に示す。

表3.3.1-3 放流先河川水の月1回検査の分析項目

No	分析項目	放流先河川水	排出水	湧水
1	カドミウム	○	○	○
2	全シアン	○	○	○
3	有機燐化合物	—	○	—
4	鉛	○	○	○
5	六価クロム	○	○	○
6	砒素	○	○	○
7	総水銀	○	○	○
8	アルキル水銀	○	○	○
9	P C B	○	○	○
10	トリクロロエチレン	○	○	○
11	テトラクロロエチレン	○	○	○
12	四塩化炭素	○	○	○
13	クロロエチレン	—	—	○
14	ジクロロメタン	○	○	○
15	1,2-ジクロロエタン	○	○	○
16	1,1,1-トリクロロエタン	○	○	○
17	1,1,2-トリクロロエタン	○	○	○
18	1,1-ジクロロエチレン	○	○	○
19	1,2-ジクロロエチレン	—	○	○
20	シス-1,2-ジクロロエチレン	○	○	—
21	1,3-ジクロロプロペン	○	○	○
22	チウラム	○	○	○
23	シマジン	○	○	○
24	チオベンカルブ	○	○	○
25	ベンゼン	○	○	○
26	セレン	○	○	○
27	硝酸性窒素および亜硝酸性窒素	○	○	○
28	ふつ素	○	○	○
29	ほう素	○	○	○
30	1,4-ジオキサン	○	○	○
31	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物および硝酸化合物	—	○	—
32	水素イオン濃度 (pH)	○	○	○
33	浮遊物質量 (SS)	○	○	—
34	塩化物イオン	—	—	○

※：分析対象「○」、分析対象外「—」

注) 灰色ハッチング箇所：研究所の坑道の埋め戻し工事の進捗に伴い坑道からの湧水がなくなったことから、

湧水の水質分析は2021年4月、排出水の水質分析は同年5月で終了した。

## (4) 分析方法

採取した試料の水質分析は、表 3.3.1-4 に示す方法で測定した。

表3.3.1-4 分析方法

分析項目	測定方法
カドミウム	誘導結合プラズマ発光分光分析法
全シアン	吸光光度法
有機燐化合物	ガスクロマトグラフ法
鉛	誘導結合プラズマ発光分光分析法
六価クロム	
砒素	水素化物発生－原子吸光光度法
総水銀	還元気化原子吸光光度法
アルキル水銀	ガスクロマトグラフ法
P C B	ガスクロマトグラフ法
トリクロロエチレン	
テトラクロロエチレン	
四塩化炭素	
クロロエチレン	
ジクロロメタン	
1,2-ジクロロエタン	ヘッドスペース・ガスクロマトグラフ質量分析法
1,1,1-トリクロロエタン	
1,1,2-トリクロロエタン	
1,1-ジクロロエチレン	
1,2-ジクロロエチレン	
シス-1,2-ジクロロエチレン	
1,3-ジクロロプロペン	
チウラム	固相抽出－高速液体クロマトグラフ法
シマジン	固相抽出－ガスクロマトグラフ質量分析法
チオベンカルブ	
ベンゼン	ヘッドスペース・ガスクロマトグラフ質量分析法
セレン	水素化物発生－原子吸光光度法
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素	イオンクロマトグラフ法
ふつ素	
ほう素	誘導結合プラズマ発光分光分析法
1,4-ジオキサン	ヘッドスペース・ガスクロマトグラフ質量分析法
アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物 および硝酸化合物	イオンクロマトグラフ法
水素イオン濃度 (pH)	ガラス電極法
浮遊物質量 (SS)	重量法
塩化物イオン	イオンクロマトグラフ法

## (5) 管理目標値

### 1) 放流先河川水の月1回検査

研究所の事業活動に伴い発生する排出水、湧水、放流先河川水については、岐阜県、瑞浪市および原子力機構で締結した「瑞浪超深地層研究所に係る環境保全協定書」(以下、環境保全協定)<sup>7)</sup>において、原子力機構は水質汚濁防止法(昭和45年法律第138号)第3条第1項に規定する排水基準、環境基本法(平成5年法律第91号)第16条第1項に規定する水質の汚濁および土壤の汚染に係る環境基準、その他の環境規制等に基づき適切に管理することとし、測定項目、管理目標値および測定頻度等を定めた「環境保全に係る基準書」<sup>8)</sup>で管理している。表3.3.1-5に放流先河川水の管理目標値、排出水の管理目標値および規制基準、湧水の参考値を示す。

なお、研究所の坑道の埋め戻し工事の進捗に伴い坑道からの湧水がなくなったことから、湧水の水質分析は2021年4月、排出水の水質分析は同年5月で終了した。

### 2) 塩化物イオン測定

研究所の湧水には自然由来の塩化物イオンが含まれており、深度が深くなるに従い濃度が上昇する傾向にある。塩化物イオン濃度の測定については、排水基準や環境基準等において法的な規制はないものの、塩化物イオン濃度の高い水を稻作等に長期間使用すると水稻等の発育に影響ができるという研究事例<sup>9),10)</sup>がある。千葉県農業試験場では、水稻は塩害に最も弱い田植え直後でも塩化物イオン濃度が500 mg/L以下の水を使用していれば被害が発生する可能性は少ないとから、安全を見込んで、水稻に対する灌漑水の塩化物イオン濃度の安全基準を300～500 mg/L以下とした<sup>9)</sup>。研究所からの排出水の放流先河川の下流域では河川水を稻作に利用していることから、上記の安全基準に基づき、明世小学校前取水口における河川水の塩化物イオン濃度については月平均300 mg/Lを管理目標値としている。月平均300 mg/Lを超える、または超えると予想される場合には直ちに耕作者に周知し、これが長期間に及ぶと予想される場合は、500 mg/Lを超える前までに必要な対策を講じることとしている。

表3.3.1-5 管理目標値（放流先河川水、排出水）、規制基準（排出水）、参考値（湧水）

測定項目	単位	管理目標値 放流先河川水	管理目標値 排出水	法令に基づく規制基準 排出水	参考値 湧水
水素イオン濃度 (pH)	—	6.5~8.5	6.5~8.5	5.8~8.6	—
浮遊物質量 (SS)	mg/L	25以下	25以下	90(日間平均70)以下	—
カドミウム	mg/L	0.003以下	0.003以下	0.03以下	0.003以下
全シアン	mg/L	検出されないこと	検出されないこと	1以下	検出されないこと
有機燐化合物	mg/L	—	検出されないこと	1以下	—
鉛	mg/L	0.01以下	0.01以下	0.1以下	0.01以下
六価クロム	mg/L	0.02以下	0.02以下	0.5以下	0.02以下
砒素	mg/L	0.01以下	0.01以下	0.1以下	0.01以下
緑水銀	mg/L	0.0005以下	0.0005以下	0.005以下	0.0005以下
アルキル水銀	mg/L	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと
P C B	mg/L	検出されないこと	検出されないこと	0.003以下	検出されないこと
トリクロロエチレン	mg/L	0.01以下	0.01以下	0.1以下	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	0.01以下	0.01以下	0.1以下	0.01以下
四塩化炭素	mg/L	0.002以下	0.002以下	0.02以下	0.002以下
クロロエチレン	mg/L	—	—	—	0.002以下
ジクロロメタン	mg/L	0.02以下	0.02以下	0.2以下	0.02以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.004以下	0.004以下	0.04以下	0.004以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	1以下	1以下	3以下	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.006以下	0.006以下	0.06以下	0.006以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.1以下	0.1以下	1以下	0.1以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	—	—	—	0.04以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.04以下	0.04以下	0.4以下	—
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.002以下	0.002以下	0.02以下	0.002以下
チラム	mg/L	0.006以下	0.006以下	0.06以下	0.006以下
シマジン	mg/L	0.003以下	0.003以下	0.03以下	0.003以下
チオベンカルブ	mg/L	0.02以下	0.02以下	0.2以下	0.02以下
ベンゼン	mg/L	0.01以下	0.01以下	0.1以下	0.01以下
セレン	mg/L	0.01以下	0.01以下	0.1以下	0.01以下
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素	mg/L	10以下	10以下	—	10以下
ふっ素	mg/L	0.8以下	0.8以下	8以下	0.8以下
ほう素	mg/L	1以下	1以下	10以下	1以下
アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物および硝酸化合物	mg/L	—	—	1Lにつきアンモニア性窒素に0.4を乗じたもの、亜硝酸性窒素および硝酸性窒素の合計量100 mg	—
1,4-ジオキサン	mg/L	0.05以下	0.05以下	0.5以下	0.05以下
塩化物イオン	mg/L	—	—	—	—

### 3.3.2 調査結果

2024 年度の放流先河川水の月 1 回検査における水質分析結果を表 3.3.2-1～表 3.3.2-2 に、塩化物イオン測定における塩化物イオン濃度の測定結果を表 3.3.2-3 に示す。また、塩化物イオン測定における経年変動を図 3.3.2-1 に、明世小学校前取水口における塩化物イオン月平均濃度の経年変動を図 3.3.2-2 に示す。

2024 年度の放流先河川水（狭間川下流部）の水質分析結果は、年間を通じて環境保全協定における「環境保全に係る基準書」の管理目標値を満たす値であった。明世小学校前取水口における塩化物イオン濃度は、冬季に融雪剤の影響と思われる一時的な上昇があったがそれ以外は低い値が継続し、また月平均濃度は年間を通じて管理目標値を満たす値であった。

これらの結果から、研究所の坑道埋め戻し等事業は、放流先河川の水質に問題となる影響を与えていないものと考えられる。

This is a blank page.

表 3.3.2-1 放流先河川水（狭間川上流部） 水質分析結果（2024 年度）

\*1 ND:検出されないの意 \*2 報告下限値未満の場合は報告下限値を用い、数値が検出された場合は検出された数値を用いて平均値を算出した。 \*3 水素イオン濃度/水温

表3.3.2-2 放流先河川水（狭間川下流部） 水質分析結果（2024年度）

位置			狭間川下流部													管理目標値		
採取日			2024/4/4	2024/5/9	2024/6/6	2024/7/4	2024/8/1	2024/9/5	2024/10/3	2024/11/7	2024/12/5	2025/1/9	2025/2/6	2025/3/6	2024/4 ~ 2025/3			
採取時刻			9:30	9:05	9:10	9:10	15:40	9:05	9:15	9:15	15:35	9:20	9:15	9:10				
天候			曇り	曇り	晴	晴	晴	晴	曇り	晴	晴	曇り	晴	曇り				
一般項目	外観		無色、濁りなし	淡黄色、濁り小	無色、濁りなし	無色、濁りなし	無色、濁りなし	無色、濁りなし	平均 ※2	最大	最小							
	臭気		無臭															
	気温	°C	17.0	15.0	23.0	31.0	34.5	28.0	25.0	12.0	11.0	3.0	-1.0	7.0	17.1	34.5	-1.0	
	水温	°C	12.0	13.0	16.9	21.3	25.7	22.7	21.2	12.4	9.1	3.3	1.8	6.2	13.8	25.7	1.8	
	透視度	度	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50				
生活環境項目	水素イオン濃度(pH) ※3		6.8/18.8°C	7.2/16.5°C	7.2/20.4°C	7.0/21.8°C	7.2/20.0°C	7.0/25.7°C	7.2/22.7°C	7.2/16.5°C	7.2/15.0°C	7.3/13.8°C	7.1/14.3°C	7.1/13.0°C	7.1	7.3	6.8	6.5~8.5
	浮遊物質量(SS)	mg/L	2	1	1	2	<1	1	2	12	<1	<1	<1	<1	2	12	<1	25以下
健康項目	カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003				0.003以下
	全シアン	mg/L	ND				検出されないこと											
	鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				0.01以下
	六価クロム	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02				0.02以下
	砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				0.01以下
	総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005				0.0005以下
	アルキル水銀	mg/L	ND				検出されないこと											
	PCB	mg/L	ND				検出されないこと											
	トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001				0.01以下
	テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005				0.01以下
	四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002				0.002以下
	ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002				0.02以下
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004				0.004以下
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005				1以下
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006				0.006以下
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002				0.1以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004				0.04以下
	1,3-ジクロロプロベン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002				0.002以下
	チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006				0.006以下
	シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003				0.003以下
	チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002				0.02以下
	ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001				0.01以下
	セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002				0.01以下
	硝酸性窒素および亜硝酸性窒素	mg/L	0.44	0.30	0.32	0.34	0.22	0.43	0.23	0.40	0.16	0.21	0.14	0.47	0.31	0.47	0.14	10以下
	ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.08	0.08	<0.08		0.8以下
	ほう素	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02				1以下
	1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			0.05以下

※1 ND:検出されないの意 ※2 報告下限値未

表 3.3.2-3 塩化物イオン測定 水質分析結果（2024 年度）

採取日	各採水地点の塩化物イオン濃度 (mg/L)		採取日	各採水地点の塩化物イオン濃度 (mg/L)	
	狭間川上流部 (河川水)	明世小学校前取水口 (河川水)		狭間川上流部 (河川水)	明世小学校前取水口 (河川水)
4月 4日	1.6	3.6	10月 3日	1.8	5.1
4月 11日	1.6	3.8	10月 10日	1.7	3.0
4月 18日	1.8	6.6	10月 17日	1.8	5.1
4月 25日	1.8	5.2	10月 24日	1.7	3.4
5月 9日	1.9	5.3	10月 31日	1.7	3.2
5月 16日	1.7	4.7	11月 7日	1.7	4.3
5月 23日	1.8	4.3	11月 14日	1.7	4.7
5月 30日	1.6	3.2	11月 21日	1.8	4.9
6月 6日	1.7	4.0	11月 28日	1.8	3.7
6月 13日	1.8	5.0	12月 5日	1.7	4.8
6月 20日	1.6	3.2	12月 12日	1.7	5.2
6月 27日	1.7	3.8	12月 19日	1.7	7.4
7月 4日	1.6	3.2	1月 9日	1.9	230 <sup>※</sup>
7月 11日	1.7	3.4	1月 16日	1.6	12 <sup>※</sup>
7月 18日	1.6	2.6	1月 23日	1.6	6.7
7月 25日	1.6	3.3	1月 30日	1.7	17 <sup>※</sup>
8月 1日	1.7	4.2	2月 6日	2.8 <sup>※</sup>	21 <sup>※</sup>
8月 8日	1.7	4.9	2月 13日	3.5 <sup>※</sup>	14 <sup>※</sup>
8月 22日	1.8	5.2	2月 20日	3.9 <sup>※</sup>	16 <sup>※</sup>
8月 28日	1.7	3.3	2月 27日	3.0 <sup>※</sup>	11 <sup>※</sup>
9月 5日	1.7	3.2	3月 6日	2.6 <sup>※</sup>	8.6 <sup>※</sup>
9月 12日	1.7	5.3	3月 13日	2.7 <sup>※</sup>	8.5 <sup>※</sup>
9月 19日	1.7	5.6	3月 19日	1.8	11 <sup>※</sup>
9月 26日	1.8	5.8	3月 27日	2.0 <sup>※</sup>	9.3 <sup>※</sup>

※融雪剤の影響と思われる。

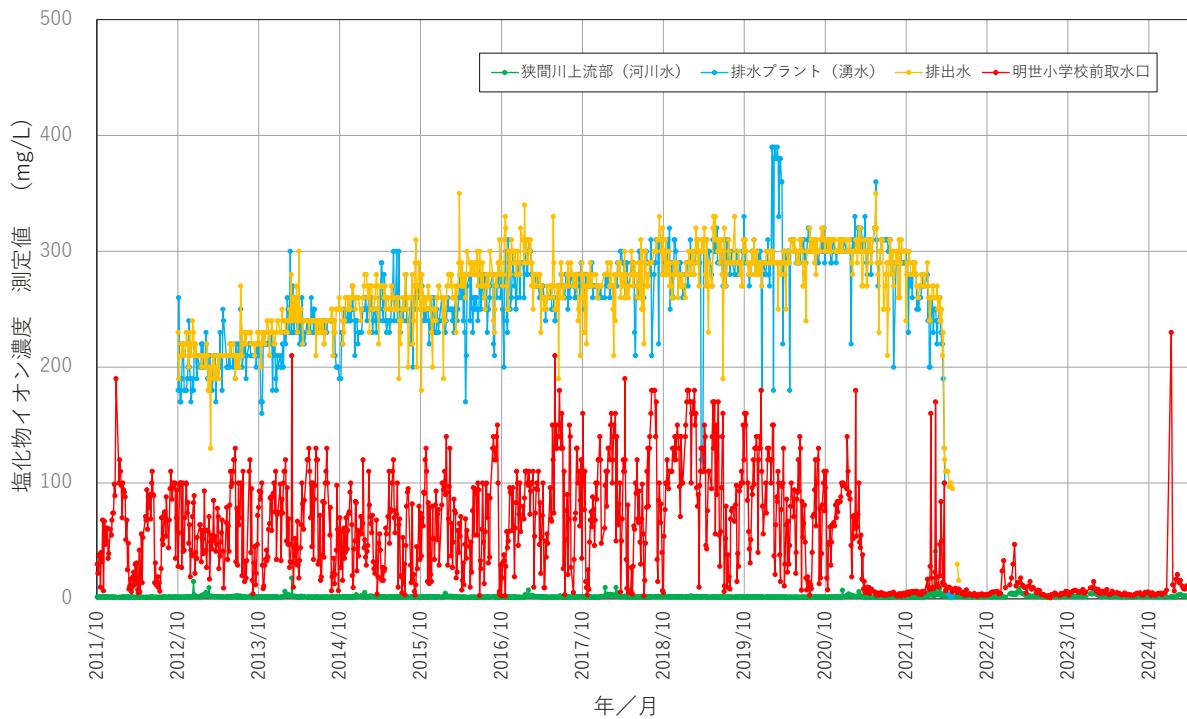


図 3.3.2-1 放流先河川水の塩化物イオン濃度の推移（2024 年度）

※東濃地科学センターホームページ「旧瑞浪超深地層研究所の日常の排水管理状況等」<sup>11)</sup>の塩化物イオン濃度の測定結果から作成。

※研究所の坑道の埋め戻し工事の進捗に伴い、坑道からの湧水および工事に伴う排出水がなくなったことから、2021年5月以降、研究所からの湧水および排出水の放流先河川への放流はない。

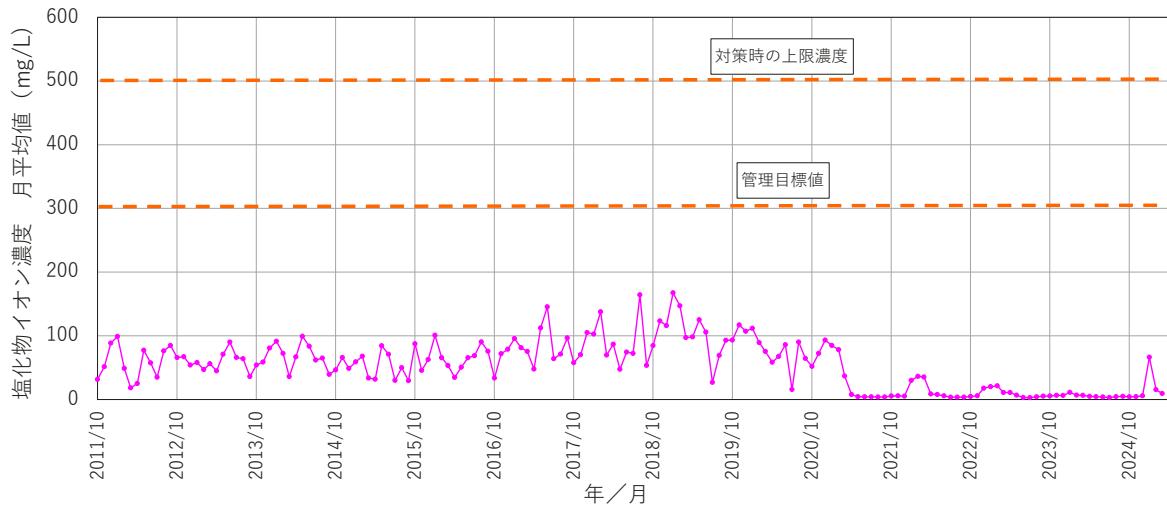


図 3.3.2-2 明世小学校前取水口における塩化物イオン濃度（月平均濃度）の推移（2024 年度）

※東濃地科学センターホームページ「旧瑞浪超深地層研究所の日常の排水管理状況等」<sup>11)</sup>の塩化物イオン濃度の測定結果から明世小学校前取水口における月平均濃度をグラフ化。

※研究所の坑道の埋め戻し工事の進捗に伴い、坑道からの湧水および工事に伴う排出水がなくなったことから、2021年5月以降、研究所からの湧水および排出水の放流先河川への放流はない。

### 3.4 研究所用地周辺騒音・振動調査

研究所の坑道埋め戻し等事業に伴う研究所用地周辺への影響を把握するため騒音・振動調査を行った。2024年度における騒音測定および振動測定の結果を以下に示す。

#### 3.4.1 調査方法

##### (1) 測定地点

測定地点は、騒音測定、振動測定とともに図 3.4.1-1 に示す研究所用地の敷地境界付近とした。

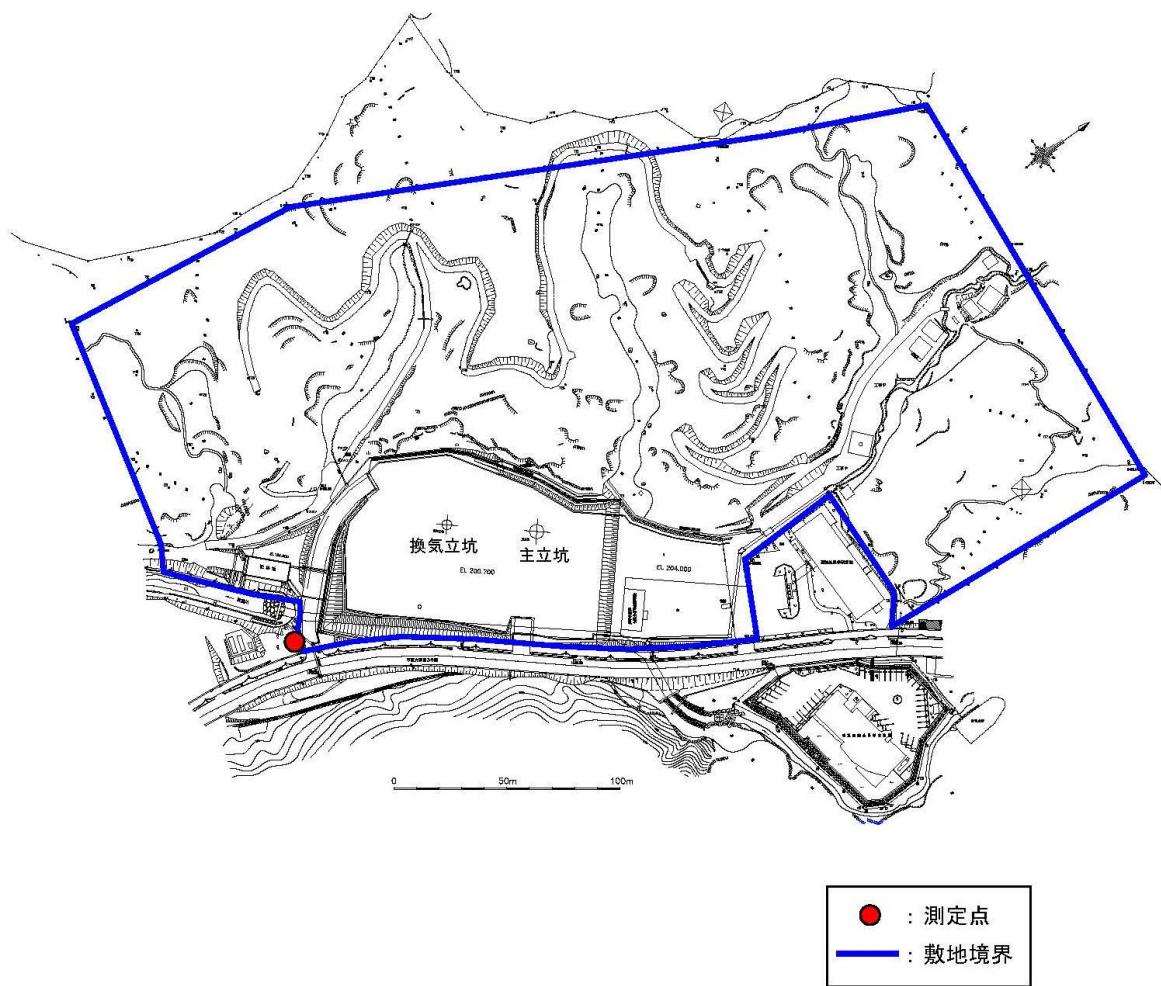


図3.4.1-1 騒音・振動調査における測定地点

##### (2) 測定頻度・測定日・測定時間

2024年度は、4回（5月、8月、11月、2月）実施した。測定日および測定時間を表 3.4.1-1 に示す。測定は原則として24時間連続で行い、毎正時より10分間ごとの測定結果を管理目標値との比較に用いた。

表3.4.1-1 測定実施日

測定実施日	
第1回	2024年 5月16日（木）13時～17日（金）13時
第2回	2024年 8月 8日（木）13時～ 9日（金）13時
第3回	2024年11月 7日（木）13時～ 8日（金）13時
第4回	2025年 2月13日（木）13時～14日（金）13時

## (3) 測定項目

騒音測定および振動測定の測定項目を表 3.4.1-2 に示す。

表3.4.1-2 測定項目

測定項目	
騒音	最大値 $L_{Amax}$
	最小値 $L_{Amin}$
	90% レンジの上端値 $L_{A5}$
	中央値 $L_{A50}$
	90% レンジの下端値 $L_{A95}$
振動	最大値 $L_{Amax}$
	最小値 $L_{Amin}$
	80% レンジの上端値 $L_{10}$
	中央値 $L_{50}$
	80% レンジの下端値 $L_{90}$

なお、騒音測定および振動測定の結果の評価については、研究所の坑道埋め戻し等事業における工種あるいは使用する建設機器・設備によって発生する騒音および振動が不規則かつ大幅に変動することから、評価の対象とする建設騒音レベルは「90% レンジ上端値 ( $L_{A5}$ )」を、建設振動レベルは「80% レンジ上端値 ( $L_{10}$ )」を適用し、以下の 3.4.1 (6) に示す管理目標値と比較して行った。

## (4) 測定方法

## 1) 騒音測定

騒音測定は、JIS Z 8731 「環境騒音の表示・測定方法」および「特定建設作業に伴つて発生する騒音の規制に関する基準」に準じて実施した。

## 2) 振動測定

振動測定は、JIS Z 8735 「振動レベル測定方法」および「振動規制法施行規則」に準拠して実施した。

## (5) 測定機器

### 1) 騒音測定

騒音測定の使用機器は、JIS C 1509-1 クラス 2 に定める騒音レベルの演算機能を有する普通騒音計を用いて、波形を記録するため JIS C 1512 に定めるレベルレコーダを用いた。なお、騒音計のマイクロホンは地上 1.2 m に設置した（図 3.4.1-2）。騒音測定で使用した機器および測定条件を表 3.4.1-3 に示す。

### 2) 振動測定

振動測定の使用機器は、JIS C 1510 に定める振動レベル計を用いて、波形を記録するため JIS C 1512 に定めるレベルレコーダを用いた。なお、振動レベル計のピックアップは裸地の十分踏み固めた平坦な場所に設置した（図 3.4.1-2）。振動測定で使用した機器および測定条件を表 3.4.1-3 に示す。



図3.4.1-2 騒音測定・振動測定の測定機器設置状況

表3.4.1-3 騒音測定・振動測定の測定機器および測定条件

測定機器	型式	測定条件
騒音計	NL-42 (リオン製)	周波数重み特性 : A特性
		時間重み特性 : FAST
		測定範囲 : 25~130 dB
		周波数範囲 : 20~8000 Hz
振動レベル計	VM-55 (リオン製)	周波数重み特性 : 鉛直振動特性 (VL)
		測定成分 : 鉛直方向 (Z)
		測定範囲 : 25~120 dB
		周波数範囲 : 1~80 Hz
レベルレコーダ	LR-07 (リオン製)	記録紙のフルレンジ : 50 dB
		記録紙の送り速度 : 0.3 mm/sec
		ペンの動特性 : FASTおよびVL

## (6) 管理目標値

### 1) 騒音測定

騒音規制法の地域区分によると研究所用地は騒音規制区域対象外であるが、研究所の坑道埋め戻し等事業に伴い発生する騒音について、敷地境界における騒音レベルを監視することで周辺環境への影響を防止するために法令等を参考にして自主的に管理目標値を設けている。研究所の坑道埋め戻し等事業に伴い発生する騒音についての管理目標値を表 3.4.1-4 に示す。

管理目標値の設定は、研究所の坑道埋め戻し等事業のうち、2022 年 1 月まで行っていた地上施設解体撤去工事が騒音規制法の「特定建設作業」および「特定施設」に該当すること、また本工事が 24 時間稼働の建設工事であることに基づいて行った。本工事内容からは、24 時間の規制基準値が設定されている特定工場の基準値を参考にすべきであるが、同規制法の地域区分によると研究所用地は騒音規制区域対象外である。従って、昼間はその主な騒音発生源が資機材運搬車やクレーン等の建設機械作業であるため特定建設作業の基準値を採用し、夜間については工事着手前の環境騒音の測定結果（付録 4）を考慮して、管理目標値を設定している。

表3.4.1-4 管理目標値（騒音）

項目	昼間 (7時～19時)	夜間 (19時～7時)
騒音レベル $L_{A5}$ (dB)	85以下	55以下

### 2) 振動測定

振動規制法の地域区分によると研究所用地は振動規制地域規制対象外であるが、研究所の坑道埋め戻し等事業に伴い発生する振動について、敷地境界における振動レベルを監視することで周辺環境への影響を防止するために法令等を参考にして自主的に管理目標値を設けている。研究所の坑道埋め戻し等事業に伴い発生する振動についての管理目標値を表 3.4.1-5 に示す。

管理目標値の設定については、振動規制法の地域区分によると研究所用地は振動規制地域規制対象外であるものの、2022 年 1 月まで実施していた坑道埋め戻し等事業の工事が 24 時間稼働の建設工事であることから、本来、24 時間の規制基準値が設定されている特定工場の基準値を参考にすべきであるが、昼間の主な振動発生源は、資機材運搬車やクレーン等の建設機械作業であると考えられるため、特定建設作業の基準値を参考にして設定した。夜間については、特定工場の基準値を参考にして、管理目標値を設定した。また、管理目標値の設定において、工事着手前の環境振動の測定結果（付録 4）を考慮した。

表3.4.1-5 管理目標値（振動）

項目	昼間 (7時～19時)	夜間 (19時～7時)
振動レベル $L_{10}$ (dB)	75以下	45以下

### 3.4.2 調査結果

#### (1) 騒音測定

2024年度における騒音の90%レンジの上端値 ( $L_{A5}$ ) を表3.4.2-1および図3.4.2-1に示す。

昼間の時間帯(7時～19時)の各時間帯における騒音の90%レンジ上端値 ( $L_{A5}$ ) は、49～68dBの範囲で変動していた。第1回および第3回の昼間において研究所の坑道埋め戻し等事業の「環境モニタリング調査」のうちの地下水の採水作業が実施されていたが、この期間を含めて第1回から第4回の全ての昼間の値が管理目標値(85dB)以下の結果であった。

夜の時間帯(19時～7時)の各時間帯における騒音の90%レンジの上端値 ( $L_{A5}$ ) は、37～61dBの範囲で変動していた。第1回、第2回および第3回の夜の時間帯において管理目標値(55dB)を上回る結果が確認された。これらのうち第1回および第3回は、測定地点周辺の車の走行によるもの、第2回の19時および5時の時間帯は虫の鳴き声によるものであり、いずれも研究所の坑道埋め戻し等事業以外の騒音による影響であった。

これらの結果から、研究所用地周辺の騒音調査においては、研究所の坑道埋め戻し等事業が研究所用地周辺の環境に問題となる影響を与えていないものと考えられる。

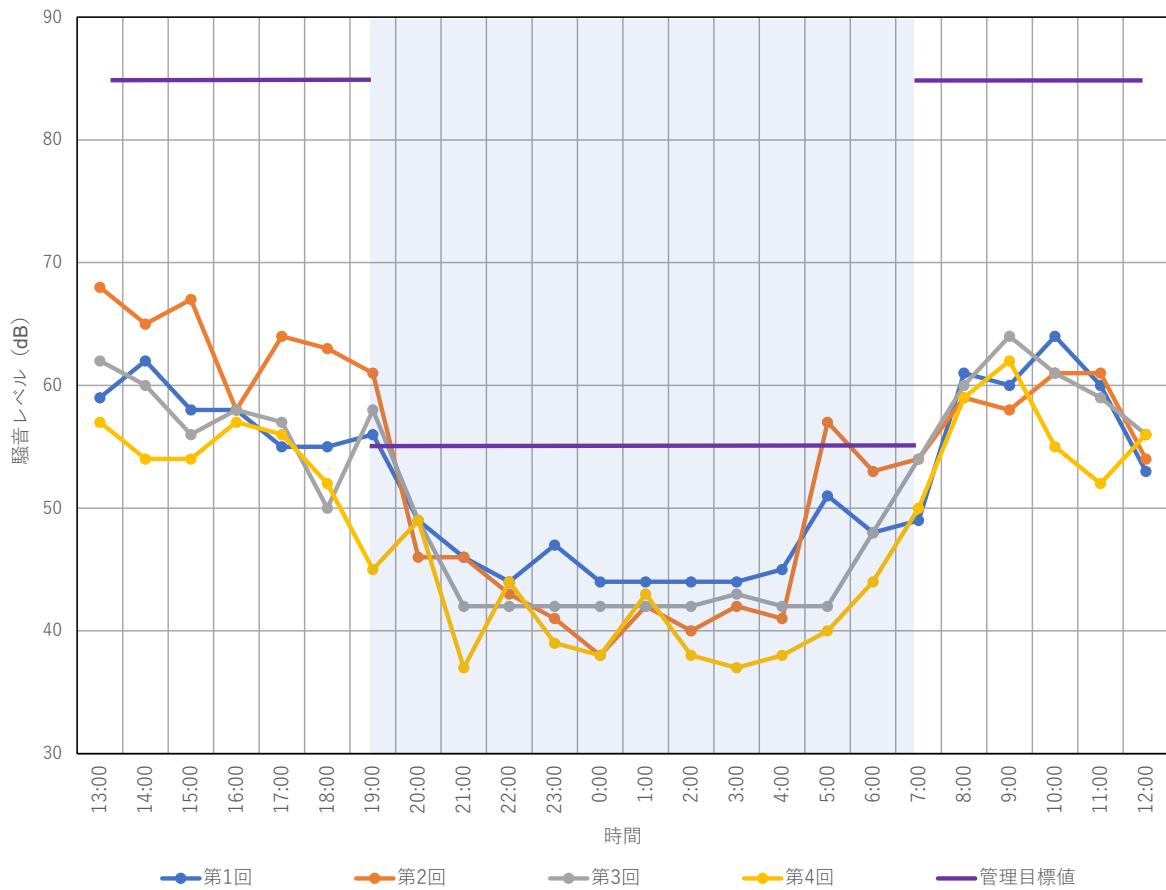
表3.4.2-1 騒音の90%レンジの上端値 ( $L_{A5}$ ) (2024年度)

単位: dB

時間区分	観測時間		騒音の90%レンジの上端値 ( $L_{A5}$ )				管理目標値
			第1回	第2回	第3回	第4回	
	開始	終了	2024年5月16日～5月17日	2024年8月8日～8月9日	2024年11月7日～11月8日	2025年2月13日～2月14日	
昼間	13:00	13:10	59	68	62	57	85
	14:00	14:10	62	65	60	54	
	15:00	15:10	58	67	56	54	
	16:00	16:10	58	58	58	57	
	17:00	17:10	55	64	57	56	
	18:00	18:10	55	63	50	52	
夜間	19:00	19:10	56	61	58	45	55
	20:00	20:10	49	46	49	49	
	21:00	21:10	46	46	42	37	
	22:00	22:10	44	43	42	44	
	23:00	23:10	47	41	42	39	
	0:00	0:10	44	38	42	38	
	1:00	1:10	44	42	42	43	
	2:00	2:10	44	40	42	38	
	3:00	3:10	44	42	43	37	
	4:00	4:10	45	41	42	38	
	5:00	5:10	51	57	42	40	
	6:00	6:10	48	53	48	44	
昼間	7:00	7:10	49	54	54	50	85
	8:00	8:10	61	59	60	59	
	9:00	9:10	60	58	64	62	
	10:00	10:10	64	61	61	55	
	11:00	11:10	60	61	59	52	
	12:00	12:10	53	54	56	56	
昼間平均値		58	61	58	55	85	
夜間平均値		47	46	45	41	55	

※1 平均値の算出は、算術平均とした。

※2 : 管理目標値(昼間85dB, 夜間55dB)を超過した時間帯を示す。

図3.4.2-1 騒音の90%レンジの上端値 ( $L_{A5}$ ) (2024年度)

## (2) 振動測定

2024年度における振動の80%レンジの上端値 ( $L_{10}$ ) を表3.4.2-2および図3.4.2-2に示す。

昼間の時間帯(7時～19時)の各時間帯における振動の80%レンジの上端値 ( $L_{10}$ ) は、25 dB未満～31 dBの範囲で変動していた。第1回および第3回の昼間において研究所の坑道埋め戻し等事業の「環境モニタリング調査」のうちの地下水の採水作業が実施されていたが、この期間を含めて第1回から第4回の全ての昼間の値は管理目標値(75 dB)を下回る結果であった。

夜間の時間帯(19時～7時)の各時間帯における値は、25 dB未満で変動しており、第1回から第4回の全ての夜間の値は管理目標値(45 dB)を下回る結果であった。

これらの結果から、研究所用地周辺の振動調査においては、研究所の坑道埋め戻し等事業が研究所用地周辺の環境に問題となる影響を与えていないものと考えられる。

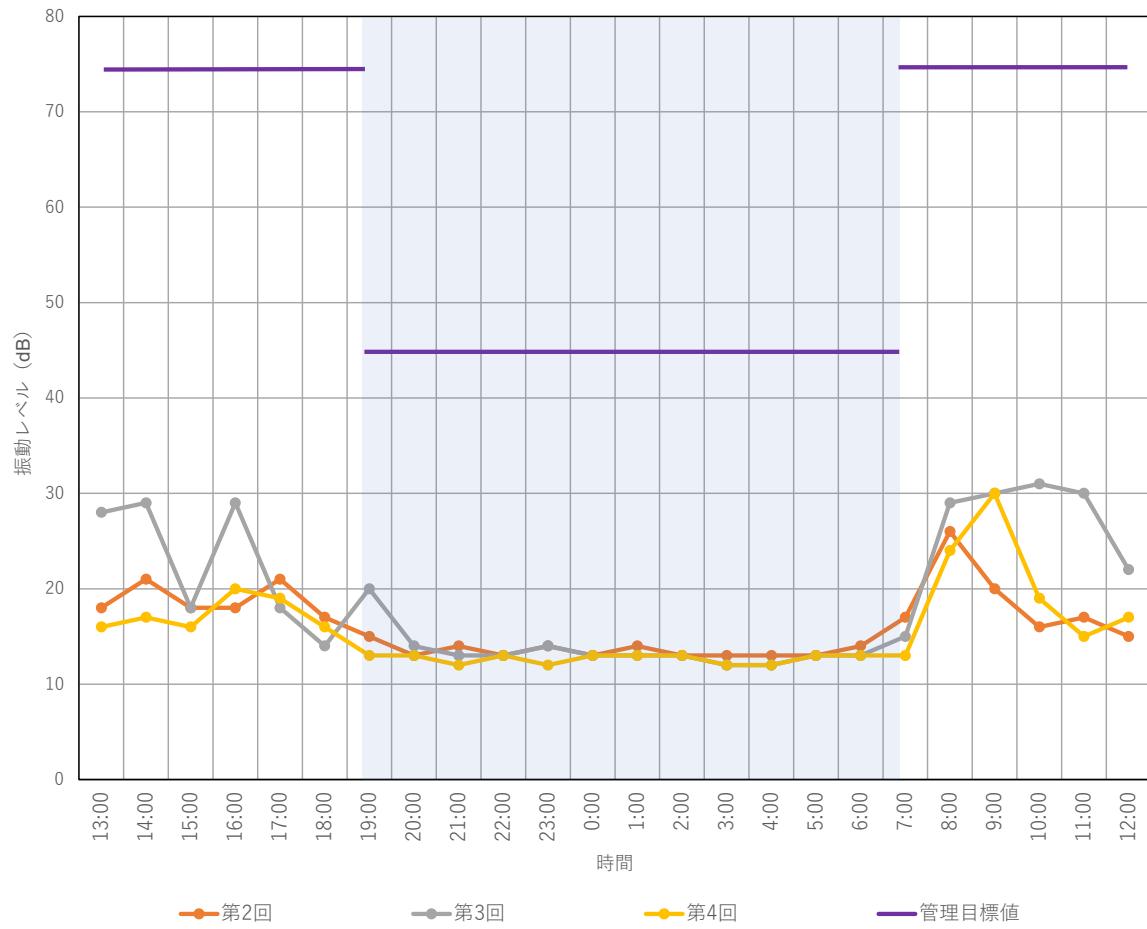
表3.4.2-2 振動の80%レンジの上端値 ( $L_{10}$ ) (2024年度)

単位：dB

時間区分	観測時間		振動の80%レンジの上端値 ( $L_{10}$ )				管理目標値
			第1回	第2回	第3回	第4回	
	開始	終了	2024年5月16日 ～5月17日	2024年8月8日 ～8月9日	2024年11月7日 ～11月8日	2025年2月13日 ～2月14日	
昼間	13:00	13:10	<25(15)	<25(18)	28	<25(16)	75
	14:00	14:10	<25(15)	<25(21)	29	<25(17)	
	15:00	15:10	<25(19)	<25(18)	<25(18)	<25(16)	
	16:00	16:10	<25(16)	<25(18)	29	<25(20)	
	17:00	17:10	<25(15)	<25(21)	<25(18)	<25(19)	
	18:00	18:10	<25(13)	<25(17)	<25(14)	<25(16)	
夜間	19:00	19:10	<25(13)	<25(15)	<25(20)	<25(13)	45
	20:00	20:10	<25(13)	<25(13)	<25(14)	<25(13)	
	21:00	21:10	<25(12)	<25(14)	<25(13)	<25(12)	
	22:00	22:10	<25(12)	<25(13)	<25(13)	<25(13)	
	23:00	23:10	<25(13)	<25(14)	<25(14)	<25(12)	
	0:00	0:10	<25(12)	<25(13)	<25(13)	<25(13)	
	1:00	1:10	<25(12)	<25(14)	<25(13)	<25(13)	
	2:00	2:10	<25(12)	<25(13)	<25(13)	<25(13)	
	3:00	3:10	<25(12)	<25(13)	<25(12)	<25(12)	
	4:00	4:10	<25(12)	<25(13)	<25(12)	<25(12)	
	5:00	5:10	<25(12)	<25(13)	<25(13)	<25(13)	
	6:00	6:10	<25(13)	<25(14)	<25(13)	<25(13)	
昼間	7:00	7:10	<25(16)	<25(17)	<25(15)	<25(13)	75
	8:00	8:10	<25(19)	26	29	<25(24)	
	9:00	9:10	<25(20)	<25(20)	30	30	
	10:00	10:10	<25(15)	<25(16)	31	<25(19)	
	11:00	11:10	<25(19)	<25(17)	30	<25(15)	
	12:00	12:10	<25(21)	<25(15)	<25(22)	<25(17)	
昼間平均値		<25(17)	<25(19)	<25(24)	<25(19)	75	
夜間平均値		<25(12)	<25(14)	<25(14)	<25(13)	45	

※1 平均値の算出は、算術平均とした。

※2 振動レベル計の測定範囲下限値が25dBであるため、25dB未満の測定値は「&lt;25」で表示し、参考値として実測値を()内に示す。

図3.4.2-2 振動の80%レンジの上端値 ( $L_{10}$ ) (2024年度)

### 3.5 研究所用地周辺土壤調査

研究所の湧水には、自然由来の塩化物イオンが含まれている。塩化物イオン濃度の測定については、排水基準や環境基準等において法的な規制はないものの、塩化物イオン濃度の高い水を稻作等に長期間使用すると稻等の発育に影響が出るという研究事例<sup>9),10)</sup>がある。ただし、圃場における塩化物イオン濃度は、農業利水点での塩化物イオン濃度や利水状況のほか、農業用水が圃場に到達するまでの生活・産業排水、融雪剤、農業肥料や除草剤等に含まれる塩化物イオンによる人為的な影響を受ける可能性がある。

これらを踏まえ、原子力機構では環境保全を適切に行うため、研究所の坑道埋め戻し等事業に伴う排出水の放流先河川から取水している耕作地等の土壤中の塩化物イオン濃度の測定を自主的に実施している。2024年度における研究所用地周辺の土壤調査の結果を以下に示す。

#### 3.5.1 調査方法

##### (1) 調査場所

土壤調査における試料を採取する場所は、2021年5月まで排出水を放流していた放流地点から下流に位置する明世小学校前取水口の小堰堤上流側の狭間川河床および狭間川から取水する耕作地である。調査場所を図3.5.1-1に示す。

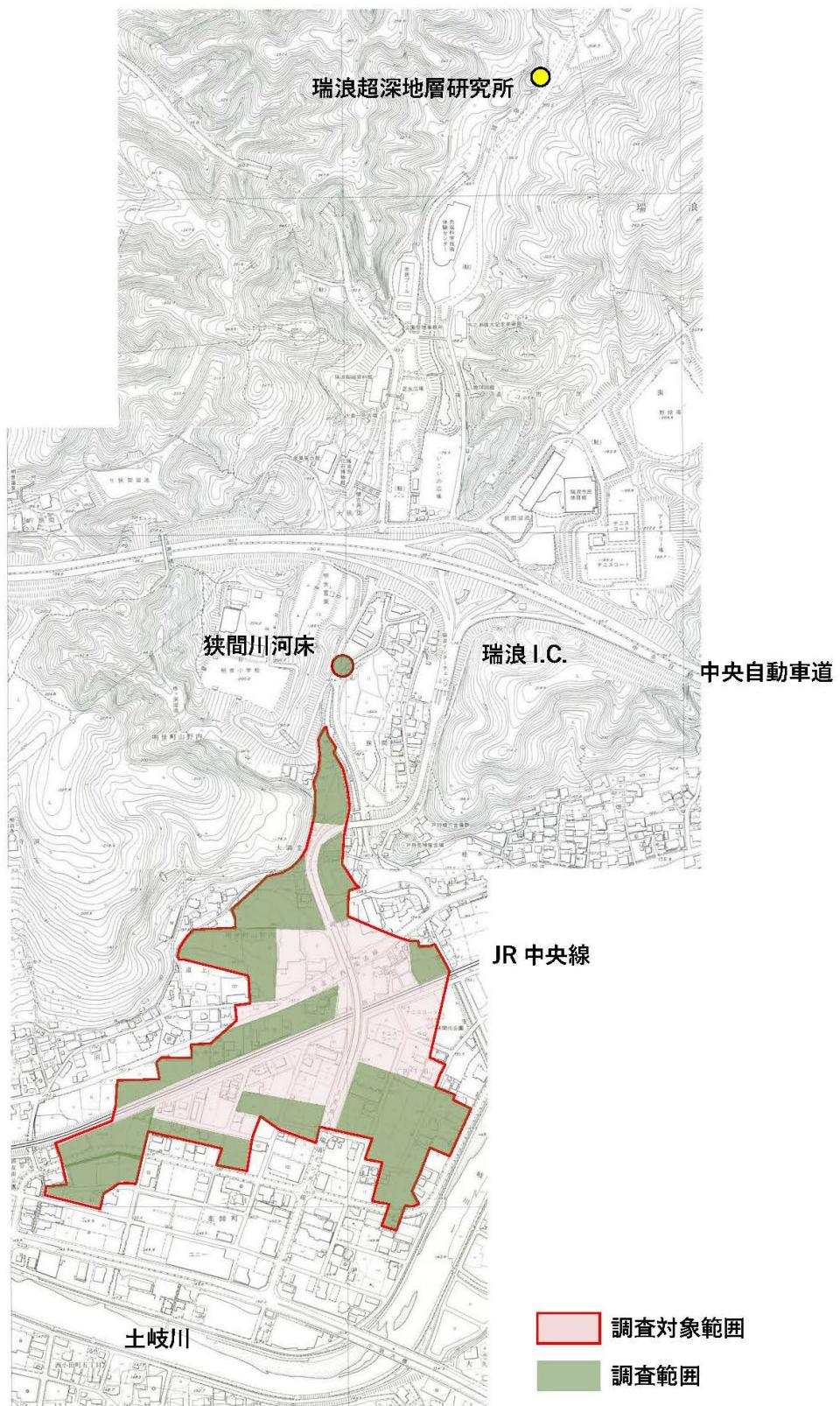


図3.5.1-1 土壤調査の調査場所

## (2) 試料採取方法

### 1) 耕作地

耕作地における試料採取は、独立行政法人土木研究所編「建設工事で遭遇する地盤汚染対応マニュアル[改訂版]」<sup>12)</sup>に準じて表層土壤採取を行った。試料採取地点の選定は次の手順とした(図3.5.1-2)。

- a) メジャーを用いて各区間の縦・横の長さを測る。
- b) 区画の中心点を定める(「中心点1」)。
- c) 中心点と東西南北境界の中間点を定める。

調査地点番号は北を「中間点2」として時計回りに「中間点3」、「中間点4」、「中間点5」とする。

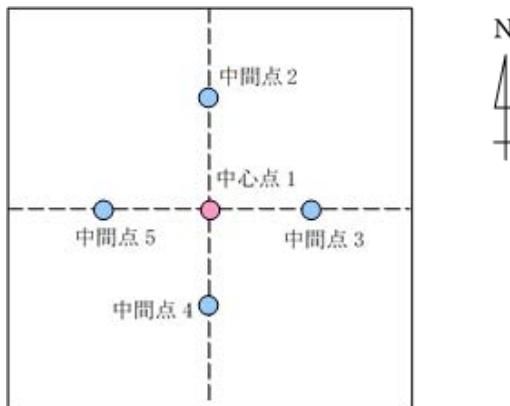


図3.5.1-2 試料採取地点の選定(耕作地)

上述の5地点における試料採取にあたっては、地表面から50cmの深さまでの土壤を採取した。採取の方法は図3.5.1-3に示す検土杖を用い、1回目は30cm、2回目は同採取孔で20cmの貫入を行った。岩盤等により50cmに達しない場合は達した深度まで採取を行った。試料採取の状況を図3.5.1-4に示す。

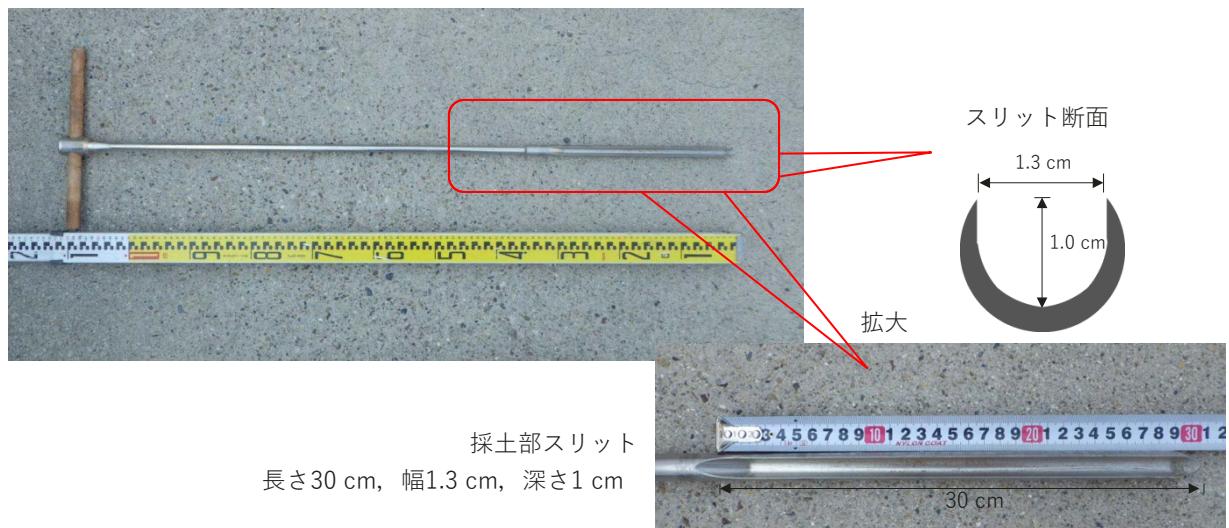


図3.5.1-3 検土杖の外観・仕様



図 3.5.1-4 試料採取の状況

## 2) 狹間川河床

狭間川河床における試料採取は、環境省通達「底質調査方法について」（環水管 120 号）<sup>13)</sup>の「3) 採泥方法」を基本として、試料の平均化のために明世小学校前取水口の小堰堤上流側における右岸、流心、左岸の 3 点とした（図 3.5.1-5）。試料採取にあたっては、当初エクマンバージ型採泥器を用いる予定であったが、玉石、礫が多く採泥器では試料採取が困難な状況であった。そのため、河床面から 50 cm の深さの中で、ショベル、ハンドスコップで玉石、礫を除きながら、細粒土を採取した。

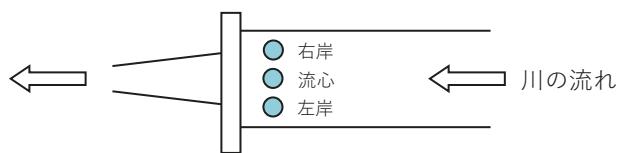


図3.5.1-5 試料採取地点の選定（狭間川河床）

## (3) 分析方法

各試料における塩化物イオンの分析方法については、地盤工学会基準 JGS 0241-2020 の土の水溶性成分試験方法に準拠して実施した。

分析方法、使用機械、報告下限値等を表 3.5.1-1 に示す。

表3.5.1-1 塩化物イオンの分析方法等

項目	分析方法	使用機械	有効数字	報告下限値
塩化物イオン	JGS 0241-2020	イオンクロマトグラフ	2桁	0.001mg/g

### 3.5.2 調査結果

2024 年度は、2021 年 5 月まで排出水を放流していた河川（狭間川）から水を取水している耕作地 68 地点（畑 24 地点、田 44 地点）、狭間川における河床 1 地点の合計 69 地点の調査場所における土壤中の塩化物イオン濃度測定を実施した。調査の結果を表 3.5.2-1～表 3.5.2-2 に示す。畑、河床および田における塩化物イオン濃度の経年変動を図 3.5.2-1～図 3.5.2-3 に示す。

調査の結果、畑の塩化物イオンの濃度は 0.001～0.015 mg/g で平均値は 0.004mg/g であった。畑における塩化物イオン濃度の変化は、全 24 地点が既往データの範囲内であった。

田の塩化物イオンの濃度は 0.002～0.029 mg/g で平均値は 0.006 mg/g であった。田の塩化物イオン濃度の変化は、全 44 地点のうち 42 地点で既往データの範囲内、2 地点で既往データの最低値よりも低い値を示した。

一般に海水等の影響を受けていない土壤の塩化物イオン濃度は、0.002～0.089 mg/g 程度（付録 5-1）<sup>14)</sup>であり、土壤中の塩化物イオンによる収量低下等の影響は、畠地で 0.4 mg/g（付録 5-2）<sup>15)</sup>、水田では 1.0 mg/g（付録 5-3）<sup>16)</sup>を上回る場合に出現するといわれている。

2024 年度の研究所用地周辺の土壤調査では、調査地点全体の塩化物イオンの濃度範囲は 0.001～0.029 mg/g であり、付録 5-1 に示す一般的な土壤の塩化物イオン濃度の範囲内であり、かつ付録 5-2、5-3 に示す畠地および水田における収量低下等の影響が出現するといわれている塩化物イオン濃度の値よりも十分に低い値であった。

2021 年 5 月以降、研究所からの排出水の放流先河川への放流が無いことや、これらの分析結果から、研究所の坑道埋め戻し等事業は、狭間川から取水している耕作地に問題となる影響を与えていないものと考えられる。

This is a blank page.

表3.5.2-1 塩化物イオン濃度経年変化（畠・河床）（2024年度まで）

畠

単位：mg/g

位置	2010年5月	2010年11月	2011年10月	2012年10月	2013年11月	2014年12月	2015年11月	2016年11月	2017年11月	2018年11月	2019年12月	2020年11月	2021年11月	2022年11月	2023年11月	2024年11月
H-1	0.009	0.035	0.003	0.007	0.004	0.051	0.003	0.007	0.003	0.011	0.002	0.003	0.002	試料採取中止	試料採取中止	試料採取中止
H-2	0.004	0.048	0.004	0.007	0.005	0.005	0.005	0.010	0.005	0.038	0.003	0.005	0.006	<0.001	0.003	0.003
H-3	0.004	0.012	0.006	0.012	0.013	0.005	0.005	0.009	0.008	0.009	0.004	0.006	0.002	0.004	0.002	0.002
H-4	0.002	0.021	0.002	0.003	0.005	0.003	0.004	0.005	0.011	0.006	0.013	0.004	0.001	0.001	0.001	0.003
H-5	0.003	0.012	0.010	0.007	0.006	0.006	0.003	0.008	0.005	0.005	0.005	0.007	0.001	<0.001	0.002	0.003
H-6	0.003	0.010	0.006	0.005	0.002	0.006	0.005	0.009	0.007	0.007	0.007	0.002	0.001	0.002	0.002	0.002
H-7	0.002	0.009	0.004	0.003	0.002	0.002	<0.001	0.006	0.003	0.003	0.006	0.003	0.002	試料採取中止	試料採取中止	試料採取中止
H-8	0.002	0.020	0.015	0.006	0.002	0.006	0.001	0.006	0.013	0.013	0.004	0.005	0.002	<0.001	0.003	0.001
H-9	0.005	0.008	0.002	0.006	0.004	0.004	0.002	0.005	0.005	0.004	0.007	0.003	0.002	0.001	0.004	0.003
H-10	0.001	0.012	0.007	0.005	0.003	0.008	0.001	0.005	0.036	0.003	0.003	0.010	0.002	0.001	0.002	0.002
H-11	0.003	0.007	0.004	0.009	0.010	0.003	0.002	0.011	0.007	0.006	0.006	0.005	0.001	0.001	0.002	0.003
H-12	0.004	0.013	0.009	0.015	0.031	0.009	0.009	0.018	0.020	0.027	0.014	0.014	0.003	0.002	0.002	0.003
H-13	0.007	0.052	0.009	0.013	0.013	0.021	0.008	0.016	0.052	0.021	0.016	0.013	0.005	0.004	0.012	0.009
H-14	0.008	0.068	0.006	0.011	0.015	0.009	0.008	0.020	0.020	0.023	0.014	0.010	0.004	0.003	0.001	0.002
H-15	0.002	0.014	0.003	0.007	0.009	0.017	0.006	試料採取中止								
H-16	0.007	0.013	0.007	0.019	0.018	0.021	0.007	0.020	0.014	0.015	試料採取中止	試料採取中止	試料採取中止	試料採取中止	試料採取中止	試料採取中止
H-17	<0.001	0.008	0.004	0.003	0.002	0.003	<0.001	0.005	0.003	0.005	0.007	0.002	<0.001	0.005	0.001	0.001
H-18	0.016	0.015	0.004	0.009	0.014	0.003	0.014	0.009	0.005	0.018	0.006	0.007	0.003	0.005	0.004	0.003
H-19	0.005	0.042	0.004	0.032	0.036	0.006	0.006	試料採取中止								
H-20	0.006	0.017	0.020	0.005	0.008	0.009	<0.001	0.013	0.008	0.007	0.22	0.01	0.008	0.021	0.014	0.015
H-21	0.024	0.015	0.003	0.006	試料採取中止											
H-22	0.022	0.015	0.007	0.011	0.010	0.030	0.011	0.020	0.011	0.018	0.019	0.020	0.010	0.002	0.020	0.013
H-23	0.008	0.007	0.008	0.012	0.010	0.021	0.004	0.005	0.011	0.018	0.012	0.005	0.009	0.003	0.008	0.014
H-24	0.006	0.013	0.005	0.005	0.003	0.002	0.009	0.007	0.011	0.005	0.005	0.002	0.001	0.004	0.002	0.002
H-25	0.006	試料採取中止														
H-26	0.003	0.015	0.003	0.003	0.005	0.028	0.001	0.006	0.014	0.005	0.005	0.003	0.001	<0.001	0.003	0.002
H-27	0.008	0.015	0.004	0.006	0.007	0.003	<0.001	0.007	0.004	0.005	0.004	0.003	0.001	<0.001	0.001	0.001
H-28	0.002	0.010	0.006	0.012	0.009	0.005	0.002	0.006	0.011	0.011	0.006	0.006	0.004	0.011	0.010	0.009
H-29	0.004	0.013	0.008	0.012	0.006	0.005	<0.001	0.007	0.006	0.014	0.003	0.010	0.002	0.003	0.012	0.003
H-30	-	-	-	-	0.027	0.007	0.005	0.009	0.026	0.021	0.038	0.008	0.001	0.004	0.003	0.004
H-31	-	-	-	-	-	0.027	0.019	0.062	0.067	0.080	0.016	0.005	0.001	0.002	0.003	0.003
最大	0.024	0.068	0.020	0.032	0.036	0.051	0.019	0.062	0.067	0.080	0.22	0.020	0.010	0.021	0.020	0.015
平均	0.006	0.019	0.006	0.009	0.010	0.011	0.006	0.012	0.014	0.015	0.017	0.007	0.003	0.004	0.005	0.004
最小	<0.001	0.007	0.002	0.003	0.002	0.002	<0.001	0.005	0.003	0.003	0.002	0.002	<0.001	<0.001	0.001	0.001

※H-25は2010年11月より、H-21は2013年11月より、H-16は2019年12月より、H-7は2022年11月より、宅地化のため試料採取中止。

※H-30は2013年11月より、T-27の一部の転作地として試料採取。

※H-31は2014年12月より、T-15・16の一部の転作地として試料採取。

※H-15は2016年11月より、ソーラーパネル設置による土地造成のため試料採取中止。

※H-19は2016年11月より、T-27と一体とみなしたため試料採取中止。

※H-1は2022年11月より、除草シート全面被覆のため試料採取中止。

河床

単位：mg/g

位置	2010年5月	2010年11月	2011年10月	2012年10月	2013年11月	2014年12月	2015年11月	2016年11月	2017年11月	2018年11月	2019年12月	2020年11月	2021年11月	2022年11月	2023年11月	2024年11月
K-1	-	-	-	-	0.063	0.005	0.009	0.020	0.025	0.034	0.034					

表3.5.2-2 塩化物イオン濃度経年変化(田)(2024年度まで)

位置	2010年5月	2010年10月	2011年10月	2012年10月	2013年11月	2014年12月	2015年11月	2016年11月	2017年11月	2018年11月	2019年12月	2020年11月	2021年11月	2022年11月	2023年11月	2024年11月
T-1	0.011	0.014	0.012	0.026	0.023	0.016	0.017	0.026	0.033	0.035	0.019	0.018	0.004	0.002	0.002	0.004
T-2	0.017	0.013	0.007	0.035	0.021	0.012	0.011	0.033	0.010	0.017	0.005	0.012	0.002	0.003	0.004	0.006
T-3	0.006	0.018	0.006	0.023	0.018	0.017	0.023	0.016	0.012	0.018	0.013	0.018	0.002	0.001	0.001	0.002
T-4	0.006	0.026	0.012	0.031	0.027	0.023	0.017	0.030	0.032	0.083	0.041	0.033	0.008	0.020	0.021	0.009
T-5	0.019	0.023	0.012	0.024	0.029	0.026	0.017	0.025	0.037	0.053	0.035	0.023	0.006	0.003	0.006	0.004
T-6	0.002	0.016	0.005	0.007	0.010	0.006	0.004	0.012	0.006	0.014	0.014	0.057	0.071	0.048	0.033	0.008
T-7	0.005	0.011	0.016	0.017	0.026	0.034	0.020	0.028	0.044	0.044	0.057	0.010	0.023	0.011	0.011	0.010
T-8	0.005	0.011	0.006	0.016	0.018	0.010	0.004	0.014	0.023	0.010	0.006	0.013	0.006	0.002	0.002	0.003
T-9	0.011	0.018	0.016	0.025	0.044	0.025	0.027	0.033	0.025	0.016	0.016	0.016	0.016	0.016	0.016	0.016
T-10	0.010	0.017	0.015	0.032	0.046	0.011	0.004	0.004	0.006	0.004	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006
T-11	0.008	0.022	0.013	0.028	0.018	0.005	0.004	0.004	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
T-12	0.011	0.052	0.028	0.082	0.051	0.044	0.036	0.053	0.045	0.041	0.036	0.043	0.035	0.022	0.011	0.007
T-13	0.015	0.030	0.034	0.072	0.061	0.031	0.040	0.041	0.041	0.041	0.041	0.041	0.036	0.035	0.035	0.035
T-14	0.009	0.029	0.021	0.035	0.037	0.022	0.019	0.035	0.035	0.011	0.010	0.010	0.010	0.011	0.011	0.007
T-15・16	0.010	0.020	0.009	0.014	0.009	0.009	0.004	0.013	0.010	0.011	0.010	0.005	0.004	0.001	<0.001	0.002
T-17・25	0.009	0.027	0.026	0.037	0.051	0.030	0.025	0.028	0.025	0.025	0.021	0.032	0.021	0.012	0.003	0.002
T-18	0.015	0.025	0.033	0.047	0.057	0.042	0.034	0.033	0.033	0.032	0.032	0.032	0.032	0.032	0.032	0.032
T-19	0.012	0.022	0.028	0.049	0.022	0.018	0.013	0.037	0.032	0.021	0.012	0.017	0.002	0.003	0.002	0.004
T-20	0.007	0.014	0.019	0.042	0.023	0.017	0.015	0.030	0.014	0.033	0.013	0.023	0.003	0.002	0.006	0.007
T-21	0.014	0.026	0.025	0.044	0.039	0.031	0.021	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T-21・1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T-21・2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T-21・3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T-21・4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T-21・5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T-21・6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T-22	0.012	0.022	0.041	0.048	0.048	0.041	0.048	0.041	0.048	0.041	0.048	0.041	0.048	0.041	0.048	0.048
T-23	0.008	0.011	0.009	0.009	0.009	0.009	0.007	0.014	0.001	0.004	0.005	0.024	0.025	0.018	0.003	0.004
T-24	0.010	0.012	0.015	0.043	0.032	0.020	0.017	0.028	0.010	0.020	0.014	0.020	0.016	0.017	0.002	0.005
T-26	0.014	0.038	0.020	0.032	0.017	0.019	0.013	0.017	0.028	0.023	0.035	0.020	0.022	0.022	0.036	0.005
T-27	0.009	0.029	0.027	0.041	0.041	0.027	0.017	0.010	0.003	0.007	0.005	0.006	0.005	0.004	0.001	0.003
T-28	0.010	0.021	0.026	0.031	0.017	0.017	0.010	0.017	0.010	0.010	0.017	0.015	0.015	0.015	0.004	0.003
T-29	0.010	0.018	0.018	0.012	0.021	0.006	0.011	0.010	0.017	0.017	0.014	0.014	0.020	0.011	0.010	0.004
T-30	0.012	0.017	0.006	0.010	0.006	0.007	0.004	0.010	0.005	0.011	0.012	0.024	0.012	0.013	0.005	0.004
T-31	0.011	0.014	0.012	0.009	0.008	0.012	0.005	0.011	0.011	0.011	0.011	0.011	0.012	0.011	0.011	0.007
T-32	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.006
T-33	0.004	0.006	0.013	0.015	0.007	0.010	0.008	0.020	0.020	0.024	0.028	0.013	0.016	0.016	0.009	0.005
T-34	0.006	0.012	0.015	0.014	0.012	0.010	0.015	0.010	0.010	0.010	0.010	0.012	0.012	0.013	0.009	0.004
T-35	0.005	0.025	0.012	0.012	0.008	0.006	0.011	0.011	0.006	0.006	0.010	0.010	0.012	0.013	0.006	0.003
T-36	0.007	0.023	0.008	0.006	0.008	0.006	0.006	0.010	0.010	0.018	0.012	0.015	0.015	0.015	0.009	0.007
T-37	0.006	0.013	0.010	0.007	0.006	0.006	0.005	0.012	0.021	0.022	0.011	0.019	0.019	0.011	0.003	0.005
T-38	0.005	0.016	0.012	0.009	0.005	0.011	0.008	0.008	0.005	0.005	0.012	0.025	0.021	0.014	0.011	0.002
T-39	0.006	0.018	0.005	0.008	0.005	0.006	0.009	0.009	0.012	0.009	0.013	0.028	0.028	0.013	0.005	0.007
T-40	0.004	0.022	0.005	0.007	0.005	0.009	0.006	0.004	0.004	0.004	0.003	0.026	0.024	0.022	0.009	0.003
T-41	0.0															

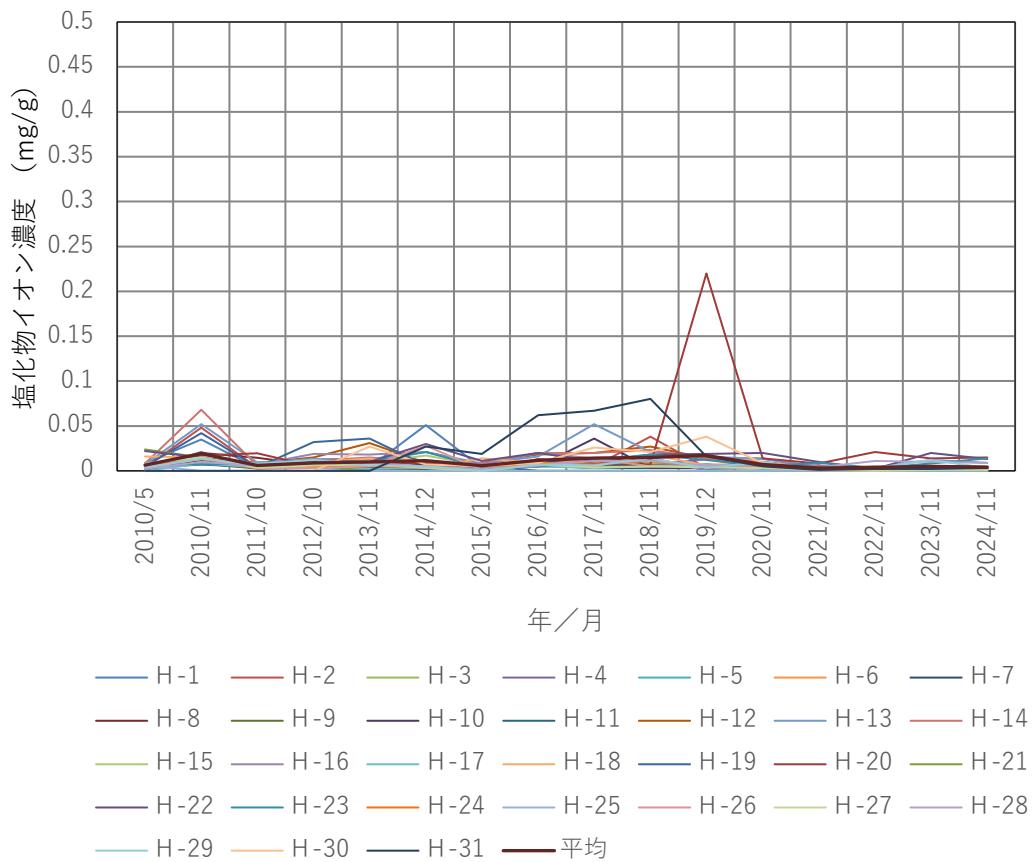


図3.5.2-1 畑の塩化物イオン濃度の経年変動（2024年まで）

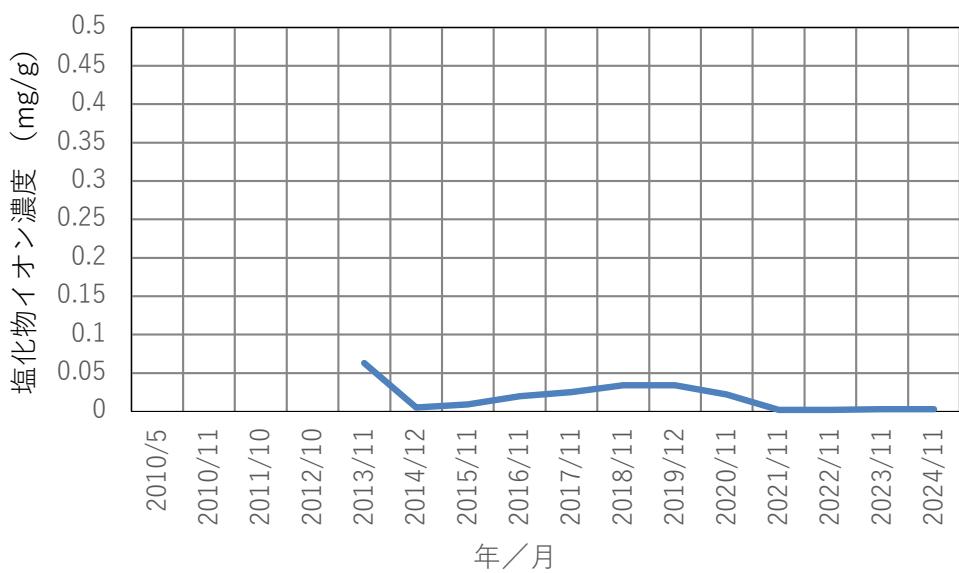


図3.5.2-2 河床の塩化物イオン濃度の経年変動（2024年まで）

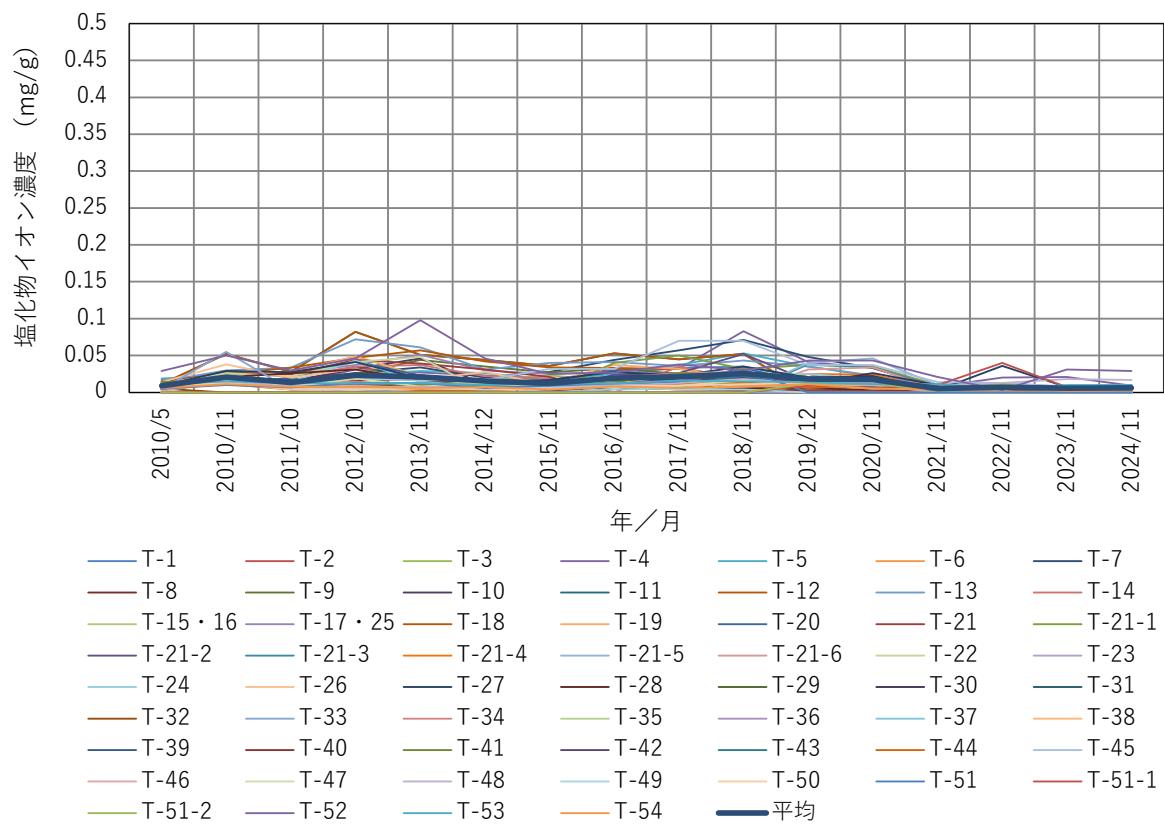


図3.5.2-3 田の塩化物イオン濃度の経年変動（2024年まで）

#### 4. まとめ

本報告書では、研究所の坑道の埋め戻しおよび地上施設の撤去等の作業に伴う研究所用地周辺の環境への影響の有無を確認するため、2024年度に実施した研究所用地周辺の井戸における地下水水位調査、研究所周辺河川流量調査、研究所用地放流先河川水の水質分析、研究所用地周辺騒音・振動調査、研究所用地周辺土壤調査といった研究所用地周辺の環境影響調査の結果を取りまとめた。これらの調査から得られた結果は、既往の調査結果と同程度であり、研究所の坑道の埋め戻しおよび地上施設の撤去等の作業が研究所用地周辺の環境に問題となる影響を与えていないことが確認された。

なお、本調査は、株式会社大林組を代表企業とするグループが設立する特別目的会社「瑞浪バックフィルサポート株式会社」が原子力機構とのPFI契約により実施する「瑞浪超深地層研究所の坑道埋め戻し等事業」の一環で行われた調査である。

#### 参考文献

- 1) 日本原子力研究開発機構、令和2年度以降の超深地層研究所計画,  
<https://www.jaea.go.jp/04/tono/miu/pdf/r020127koutei.pdf>（参照：2025年7月3日）.
- 2) 竹内竜史、西尾和久、花室孝広、國分（齋藤）陽子、瑞浪超深地層研究所の坑道埋め戻し等事業における環境モニタリング調査；瑞浪超深地層研究所用地周辺の環境影響調査（2020-2021年度），JAEA-Data/Code 2022-010，2023，110p.
- 3) 竹内竜史、西尾和久、國分（齋藤）陽子、瑞浪超深地層研究所の坑道埋め戻し等事業における環境モニタリング調査；瑞浪超深地層研究所用地周辺の環境影響調査（2022年度），JAEA-Data/Code 2023-013，2024，74p.
- 4) 竹内竜史、國分（齋藤）陽子、西尾和久、瑞浪超深地層研究所の坑道埋め戻し等事業における環境モニタリング調査；瑞浪超深地層研究所用地周辺の環境影響調査（2023年度），JAEA-Data/Code 2024-015，2025，68p.
- 5) 国土交通省、水文水質データベース，<http://www1.river.go.jp/>（参照：2025年7月3日）.
- 6) 電力土木技術協会、発電水力流量調査の手引き（2001年版），2000，203p.
- 7) 日本原子力研究開発機構、瑞浪超深地層研究所に係る環境保全協定書，  
<https://www.jaea.go.jp/04/tono/kyoute/kyote051114k2.pdf>（参照：2025年7月3日）.
- 8) 日本原子力研究開発機構、環境保全に関する基準書，  
[https://www.jaea.go.jp/04/tono/kyoute/kankyo\\_kijyun20220328.pdf](https://www.jaea.go.jp/04/tono/kyoute/kankyo_kijyun20220328.pdf)（参照：2025年7月3日）.
- 9) 千葉県香取市庁香取農業改良普及所千葉県農業試験場、香北地区の水田土壤と稻作，1976，45p.
- 10) 千葉県農林部農業改良課、農林公害ハンドブック（改訂版），1990，303p.
- 11) 日本原子力研究開発機構、旧瑞浪超深地層研究所の日常の排水管理状況等，  
[https://www.jaea.go.jp/04/tono/an\\_miuwater/day/index.html](https://www.jaea.go.jp/04/tono/an_miuwater/day/index.html)（参照：2025年7月3日）.
- 12) 土木研究所、建設工事で遭遇する地盤汚染対応マニュアル[改訂版]，2012，114p.
- 13) 環境省、底質調査方法について，<https://www.env.go.jp/hourei/05/000177.html>（参照：2025年7月30日）.
- 14) 地盤工学会、地盤材料試験の方法と解説（2分冊の1），2009，533p.

- 15) 奥田東他, 改著 土壌・肥料ハンドブック, 1965, 664p.
- 16) 農林水産省農村振興局, 農地の除塩マニュアル, 2011, 18p.

## 付録 1 国土交通省・日吉観測所における雨量観測記録

付録1-1 2024年度 日降雨量一覧  
(国土交通省・日吉観測所における雨量観測記録<sup>5)</sup>より)

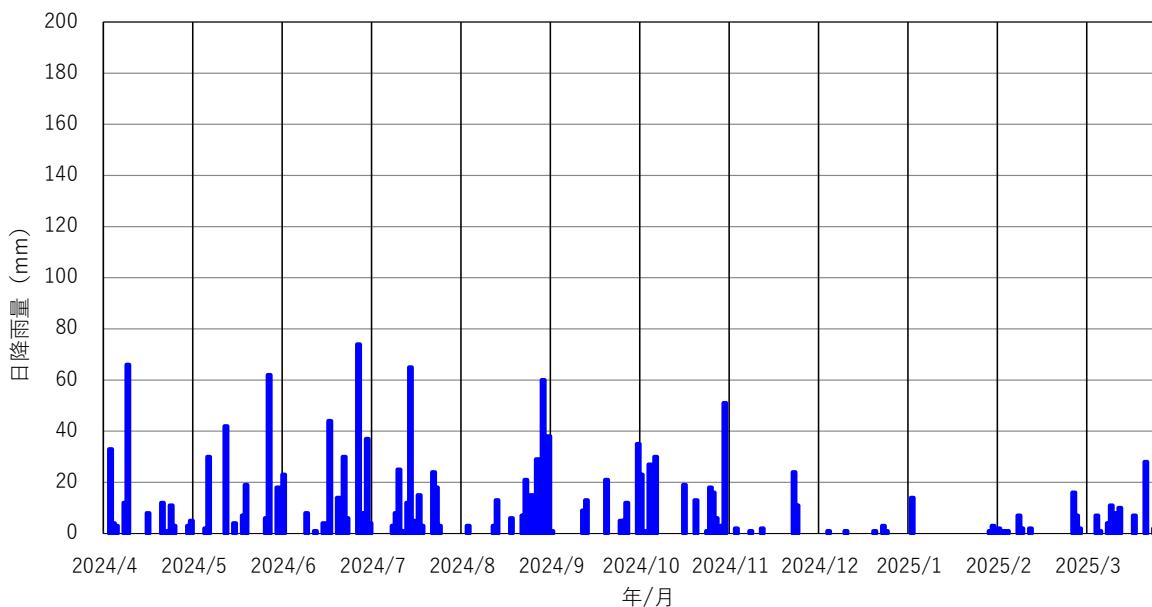
年間降雨量 (mm) *	1502.0
年最大月降雨量 (mm)	223.0
年最大日降雨量 (mm)	74.0

単位: mm

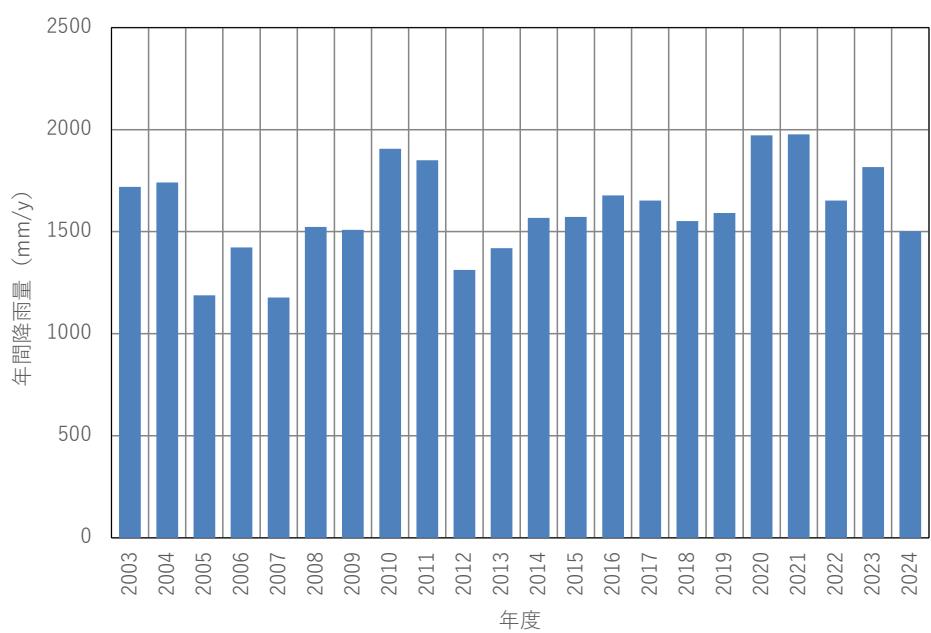
年月 日	2024年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1		5.0		37.0		1.0		3.0				
2			23.0	4.0		38.0		51.0			1.0	
3	33.0					1.0	35.0				3.0	16.0
4	4.0						23.0				1.0	7.0
5	3.0				3.0		1.0				2.0	2.0
6		2.0						2.0		14.0	1.0	
7		30.0					27.0				1.0	
8	12.0						4.0		1.0		1.0	
9	66.0						30.0					
10			8.0	3.0								
11				8.0				1.0				7.0
12				25.0							7.0	1.0
13		42.0	1.0									2.0
14				1.0	3.0	9.0			1.0			
15				12.0	13.0	13.0		2.0				4.0
16	8.0	4.0	4.0	65.0							2.0	11.0
17			3.0	5.0								
18			44.0									8.0
19			7.0		15.0			19.0				10.0
20			19.0		3.0	6.0						
21	12.0		14.0									
22	1.0		2.0			21.0						
23			30.0				13.0					
24	11.0		6.0	24.0	7.0				1.0			7.0
25	3.0			18.0	21.0							
26				3.0	11.0			24.0				
27		6.0			15.0	5.0	1.0	11.0	3.0			
28		62.0	74.0		1.0	5.0	18.0		1.0			28.0
29			1.0		29.0	12.0	16.0					
30	3.0		8.0		4.0		6.0					
31		18.0			60.0							2.0
月降雨量	156.0	195.0	218.0	223.0	173.0	105.0	193.0	94.0	7.0	14.0	21.0	103.0
最大日降雨量	66.0	62.0	74.0	65.0	60.0	38.0	35.0	51.0	3.0	14.0	7.0	28.0

※年間降雨量 (mm) は、2024年4月1日から2025年3月31日の合計である。

付録1-2 2024年度 日降雨量変動図  
(国土交通省・日吉観測所における雨量観測記録<sup>5)</sup>より)



付録1-3 年間降雨量変動図  
(国土交通省・日吉観測所における雨量観測記録<sup>5)</sup>より)



- ・2003～2019年度の年間降雨量は、4月1日から2月末までの降雨量の合計。
- ・2020年度以降の年間降雨量は、4月1日から3月末までの降雨量の合計。

## 付録2 河川流量測定結果

2024年度の各地点（上流地点，中流地点，下流地点，明世小学校前地点）における河川流量測定結果を付録2-1～2-4に示す。

**付録2-1 測定結果一覧表（上流地点，2024年度）**

測定年月日	測定番号	水位 (m)	平均流速 (m/s)	断面積 (m <sup>2</sup> )	流量 (m <sup>3</sup> /s)	測定法
2024年4月2日	1	0.13	0.173	0.075	0.013	精密法
2024年5月7日	2	0.14	0.191	0.089	0.017	〃
2024年5月20日	3	0.13	0.220	0.050	0.011	〃
2024年6月4日	4	0.13	0.203	0.059	0.012	〃
2024年6月18日	5	0.21	0.282	0.206	0.058	〃
2024年7月2日	6	0.18	0.408	0.103	0.042	〃
2024年7月30日	7	0.11	0.190	0.042	0.008	〃
2024年8月6日	8	0.09	0.167	0.024	0.004	〃
2024年8月28日	9	0.11	0.122	0.041	0.005	〃
2024年9月3日	10	0.17	0.319	0.094	0.030	〃
2024年9月18日	11	0.10	0.097	0.031	0.003	〃
2024年10月1日	12	0.10	0.094	0.032	0.003	〃
2024年10月9日	13	0.19	0.341	0.132	0.045	〃
2024年11月5日	14	0.15	0.231	0.052	0.012	〃
2024年12月2日	15	0.12	0.103	0.029	0.003	〃
2025年1月7日	16	0.13	0.107	0.028	0.003	〃
2025年2月4日	17	0.12	0.042	0.024	0.001	〃
2025年3月4日	18	0.12	0.095	0.021	0.002	〃

**付録2-2 測定結果一覧表（中流地点，2024年度）**

測定年月日	測定番号	水位 (m)	平均流速 (m/s)	断面積 (m <sup>2</sup> )	流量 (m <sup>3</sup> /s)	測定法
2024年4月2日	1	0.53	0.210	0.157	0.033	精密法
2024年5月7日	2	0.53	0.559	0.059	0.033	〃
2024年5月20日	3	0.53	0.522	0.090	0.047	〃
2024年6月4日	4	0.52	0.435	0.085	0.037	〃
2024年6月18日	5	0.62	0.674	0.261	0.176	〃
2024年7月2日	6	0.58	0.452	0.208	0.094	〃
2024年7月30日	7	0.50	0.250	0.080	0.020	〃
2024年8月6日	8	0.48	0.157	0.070	0.011	〃
2024年8月28日	9	0.49	0.188	0.101	0.019	〃
2024年9月3日	10	0.54	0.293	0.215	0.063	〃
2024年9月18日	11	0.47	0.152	0.066	0.010	〃
2024年10月1日	12	0.47	0.106	0.085	0.009	〃
2024年10月9日	13	0.58	0.502	0.257	0.129	〃
2024年11月5日	14	0.52	0.246	0.126	0.031	〃
2024年12月2日	15	0.49	0.141	0.071	0.010	〃
2025年1月7日	16	0.47	0.107	0.084	0.009	〃
2025年2月4日	17	0.45	0.065	0.077	0.005	〃
2025年3月4日	18	0.45	0.059	0.101	0.006	〃

付録2-3 測定結果一覧表（下流地点, 2024年度）

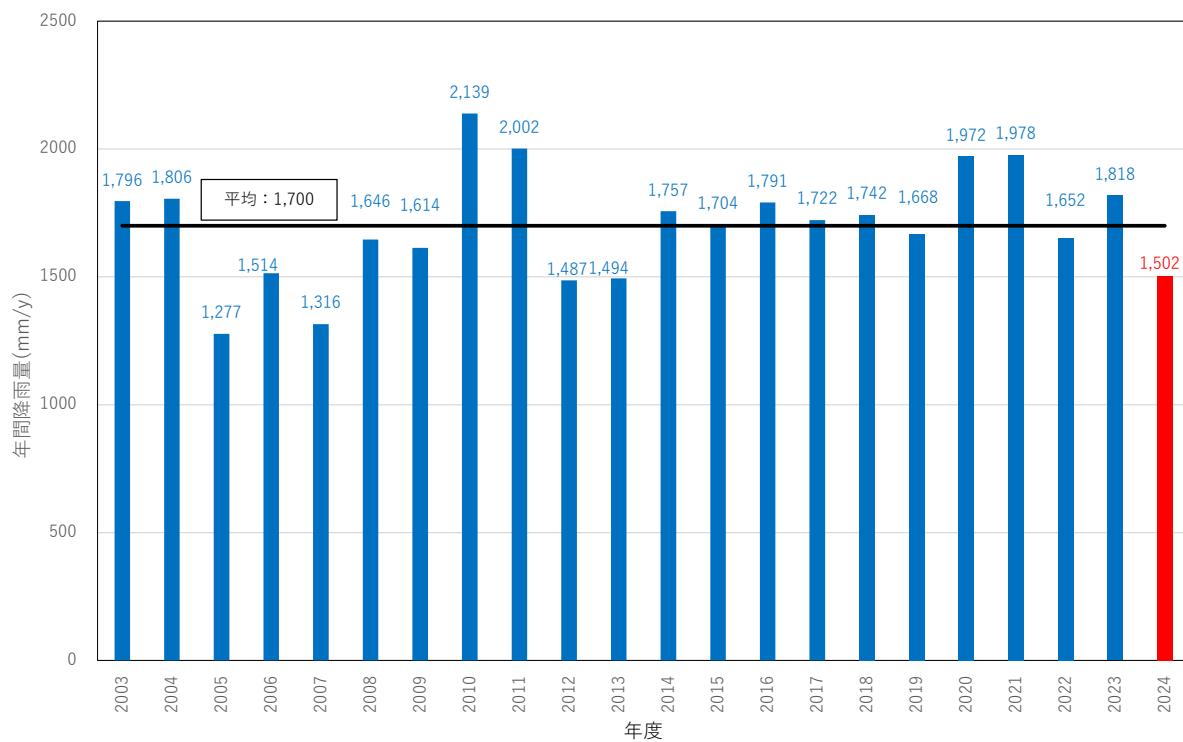
測定年月日	測定番号	水位 (m)	平均流速 (m/s)	断面積 (m <sup>2</sup> )	流量 (m <sup>3</sup> / s )	測定法
2024年4月2日	1	0.04	0.289	0.128	0.037	精密法
2024年5月7日	2	0.09	0.362	0.163	0.059	//
2024年5月20日	3	0.08	0.378	0.188	0.071	//
2024年6月4日	4	0.07	0.318	0.173	0.055	//
2024年6月18日	5	0.23	1.255	0.392	0.492	//
2024年7月2日	6	0.15	0.655	0.310	0.203	//
2024年7月30日	7	0.03	0.230	0.100	0.023	//
2024年8月6日	8	0.02	0.165	0.079	0.013	//
2024年8月28日	9	0.04	0.211	0.114	0.024	//
2024年9月3日	10	0.10	0.569	0.269	0.153	//
2024年9月18日	11	0.01	0.164	0.073	0.012	//
2024年10月1日	12	0.02	0.178	0.090	0.016	//
2024年10月9日	13	0.23	1.089	0.372	0.405	//
2024年11月5日	14	0.06	0.309	0.152	0.047	//
2024年12月2日	15	0.03	0.155	0.084	0.013	//
2025年1月7日	16	0.04	0.138	0.087	0.012	//
2025年2月4日	17	0.04	0.083	0.072	0.006	//
2025年3月4日	18	0.04	0.165	0.079	0.013	//

付録2-4 測定結果一覧表（明世小学校前地点, 2024年度）

測定年月日	測定番号	水位 (m)	平均流速 (m/s)	断面積 (m <sup>2</sup> )	流量 (m <sup>3</sup> / s )	測定法
2024年4月2日	1	0.43	0.070	0.927	0.065	精密法
2024年5月7日	2	0.45	0.103	0.997	0.103	//
2024年5月20日	3	0.46	0.102	1.122	0.114	//
2024年6月4日	4	0.42	0.081	1.000	0.081	//
2024年6月18日	5	0.67	0.426	2.011	0.857	//
2024年7月2日	6	0.52	0.211	1.377	0.290	//
2024年7月30日	7	0.37	0.030	0.887	0.027	//
2024年8月6日	8	0.35	0.021	0.702	0.015	//
2024年8月28日	9	0.38	0.031	0.817	0.025	//
2024年9月3日	10	0.49	0.189	1.295	0.245	//
2024年9月18日	11	0.35	0.034	0.762	0.026	//
2024年10月1日	12	0.36	0.028	0.689	0.019	//
2024年10月9日	13	0.57	0.284	1.628	0.463	//
2024年11月5日	14	0.43	0.083	1.086	0.090	//
2024年12月2日	15	0.38	0.083	0.254	0.021	//
2025年1月7日	16	0.39	0.087	0.276	0.024	//
2025年2月4日	17	0.38	0.064	0.282	0.018	//
2025年3月4日	18	0.38	0.083	0.240	0.020	//

## 付録3 研究所用地周辺の年間降雨量の推移

付録3-1 年間降雨量の推移（2003年度～2024年度）  
 （国土交通省・日吉観測所での雨量観測記録<sup>5)</sup>より）



- ・2003年度～2019年度の年間降雨量は、3月1日～2月末までの降雨量の合計。
- ・2020年度の年間降雨量は、4月1日～2月末の合計と、2020年3月および2021年3月の平均値との和としている。
- ・2021年度以降の年間降雨量は、4月1日～3月末までの降雨量の合計。

## 付録4 研究所建設工事着手前の研究所用地周辺の騒音・振動測定結果

### 付録4-1 研究所建設工事着手前の研究所用地周辺の騒音測定結果

環境騒音レベル（2002年6月19日測定）

	実測定騒音レベル (L <sub>A5</sub> )	環境基準値	備 考
昼間	55 dB	55 dB 以下	・交通騒音 ・草刈りに伴う作業音 ・ボーリングに伴う作業音、発電機稼働音
夜間	54 dB	45 dB 以下	・交通騒音 ・ボーリング作業に伴う発電機稼働音

### 付録4-2 研究所建設工事着手前の研究所用地周辺の振動測定結果

環境振動レベル（2002年6月19日測定）

	実測定振動レベル (L <sub>10</sub> )	環境基準値
昼間	30 dB 未満*	55 dB 以下
夜間	30 dB 未満*	45 dB 以下

\*「30 dB未満」は、測定下限値未満を示す。

## 付録5 他地域の土壤中塩化物イオン濃度

### 付録5-1 土壤中の塩化物イオン測定例

土質	採取地	塩化物イオン濃度 (mg/g)
ローム	日立市	0.016
ローム	千代田区	0.011
腐植土	彦根市	0.082
泥岩	大磯町	0.045
マサ土	大津市	0.002
黒ボク	清瀬市	0.007
水底土*	中海*	27
沖積粘土	倉吉市	0.015
沖積粘土	品川区	0.089
沖積粘土*	大阪湾*	8.6
泥岩	東京都	0.008
有機質粘土	横浜市	0.035
最大		0.089
最小		0.002

出典：地盤材料試験の方法と解説（2分冊の1） 地盤工学会（2009年）<sup>14)</sup>より引用し一部改変。

\*）海水の影響があると考えられる「水底土（中海）」および「沖積粘土（大阪湾）」は最大・最小から除外した。

### 付録5-2 農用地土壤の評価目安

対象物	項目	望ましい影響 レベル	影響レベルを満足しない ときに予想される現象
土壤（農作物等）	Cl <sup>-</sup>	400 mg/kg以下 (=0.4 mg/g以下)	耐塩性の弱いキュウリの生育不良が発生

出典：改著 土壌・肥料ハンドブック 奥田東他（1965年）<sup>15)</sup>に一部加筆。

## 付録5-3 作物の耐塩性

作物名	土壤中Cl (mg/100g)	備考
ニンジン	50	= 0.50 mg/g
レタス	50	= 0.50 mg/g
タマネギ	60	= 0.60 mg/g
バレイショ	60	= 0.60 mg/g
ハクサイ	60	= 0.60 mg/g
ホウレンソウ	70	= 0.70 mg/g
トマト	70	= 0.70 mg/g
ダイコン	70	= 0.70 mg/g
ネギ	70	= 0.70 mg/g
水稻	100	= 1.00 mg/g

出典：農地の除塩マニュアル 農林水産省農村振興局（2011年）<sup>16)</sup>を一部改変。



